

第3章 地域及び公共交通の現状

1. 市の概況と人口

(1) 市の位置及び広域交通網

- 瀬戸市は、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約 20km に位置している。
- 名鉄瀬戸線が名古屋市中心部の栄町駅と連絡している。
- 愛知環状鉄道が J R 高蔵寺駅を經由して名古屋駅と連絡している。また、豊田市内を經由して J R 東海道本線岡崎駅とも連絡している。

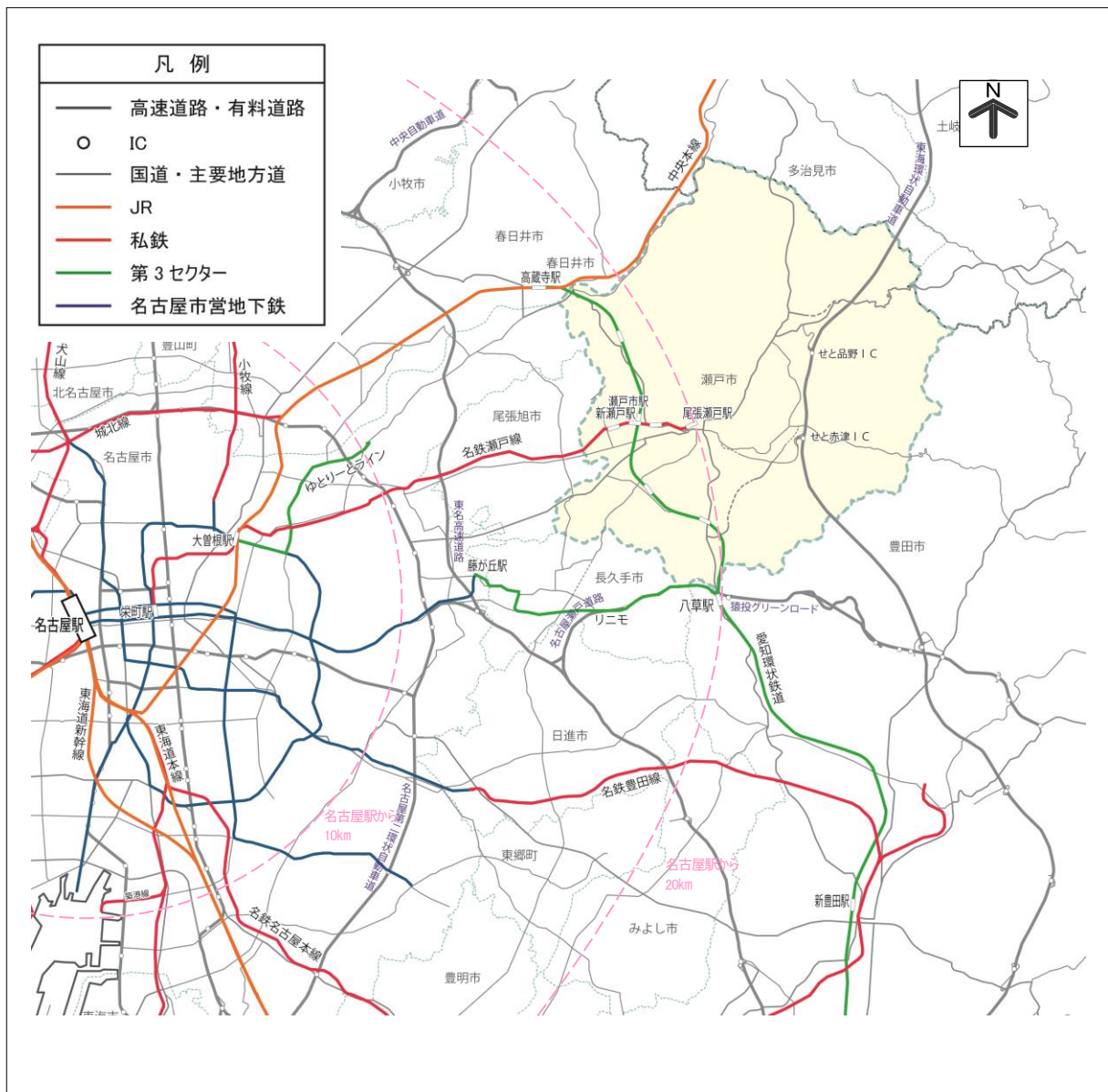


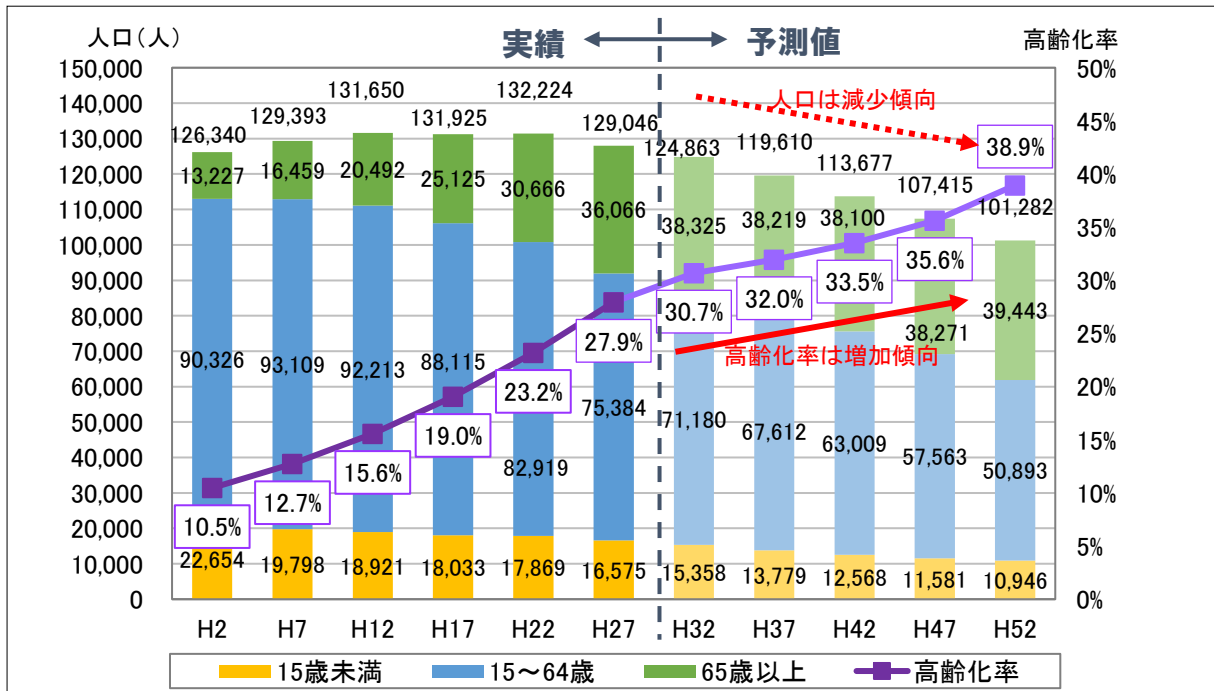
図 市の位置及び広域交通網図

出典：都市交通マスタープラン

(2) 人口減少と超高齢化の進展

- 瀬戸市の総人口は平成 22 年をピークに減少している。
- 市内の高齢化率は増加傾向であり、市域の東側で高齢化率が高い。
- 中心市街地や菱野団地では高齢化率の増加が著しく、4 割を超える連区が存在する。

■ 人口の推移



出典：【H27以前】国勢調査

【H32以降】国立社会保障・人口問題研究所（H30.3公表値）

■ 連区別人口・高齢化の動向

連区	人口の推移					高齢化の推移			
	H17	H22	H27	H27-H17 差分	H27/H17 増減率	H17	H22	H27	H27-H17 差分
① 道 泉	4,539	4,404 ▼	4,178 ▼	-361	-8.0%	25.0%	27.0%	29.5%	4.5%
② 深 川	2,907	2,628 ▼	2,368 ▼	-539	-18.5%	33.8%	38.4%	43.2%	9.4%
③ 古瀬戸	4,258	3,939 ▼	3,592 ▼	-666	-15.6%	24.3%	30.4%	37.1%	12.8%
④ 東 明	3,559	3,338 ▼	3,301 ▼	-258	-7.2%	23.9%	29.6%	34.8%	11.0%
⑤ 祖母懐	3,280	3,070 ▼	2,871 ▼	-409	-12.5%	30.6%	34.4%	37.8%	7.2%
⑥ 陶 原	6,712	6,704 ▼	7,675 ▲	963	14.3%	21.4%	24.3%	29.2%	7.8%
⑦ 長 根	8,506	8,953 ▲	9,197 ▲	691	8.1%	16.0%	19.4%	23.0%	7.0%
⑧ 效 範	17,079	18,891 ▲	18,625 ▼	1,546	9.1%	17.6%	19.1%	22.9%	5.3%
⑨ 水 南	10,864	11,116 ▲	10,931 ▼	67	0.6%	15.9%	19.5%	24.9%	9.0%
⑩ 水 野	10,228	8,464 ▼	9,414 ▲	-814	-8.0%	16.8%	22.0%	23.9%	7.1%
⑪ 品 野	11,983	11,733 ▼	11,099 ▼	-884	-7.4%	21.9%	26.4%	31.5%	9.6%
⑫ 幡 山	27,060	27,325 ▲	26,196 ▼	-864	-3.2%	14.8%	18.8%	23.8%	9.0%
⑬ 西 陵	5,517	8,305 ▲	8,323 ▲	2,806	50.9%	22.6%	22.4%	27.8%	5.2%
⑭ 原山台	5,096	4,469 ▼	4,341 ▼	-755	-14.8%	20.6%	29.3%	35.0%	14.4%
⑮ 萩山台	4,874	4,472 ▼	3,757 ▼	-1,117	-22.9%	19.0%	28.8%	39.0%	20.1%
⑯ 八幡台	6,055	5,639 ▼	5,015 ▼	-1,040	-17.2%	16.7%	26.2%	37.1%	20.4%
市全体	132,517	133,450	130,883	-1,634	-1.2%	18.9%	22.9%	27.7%	8.8%

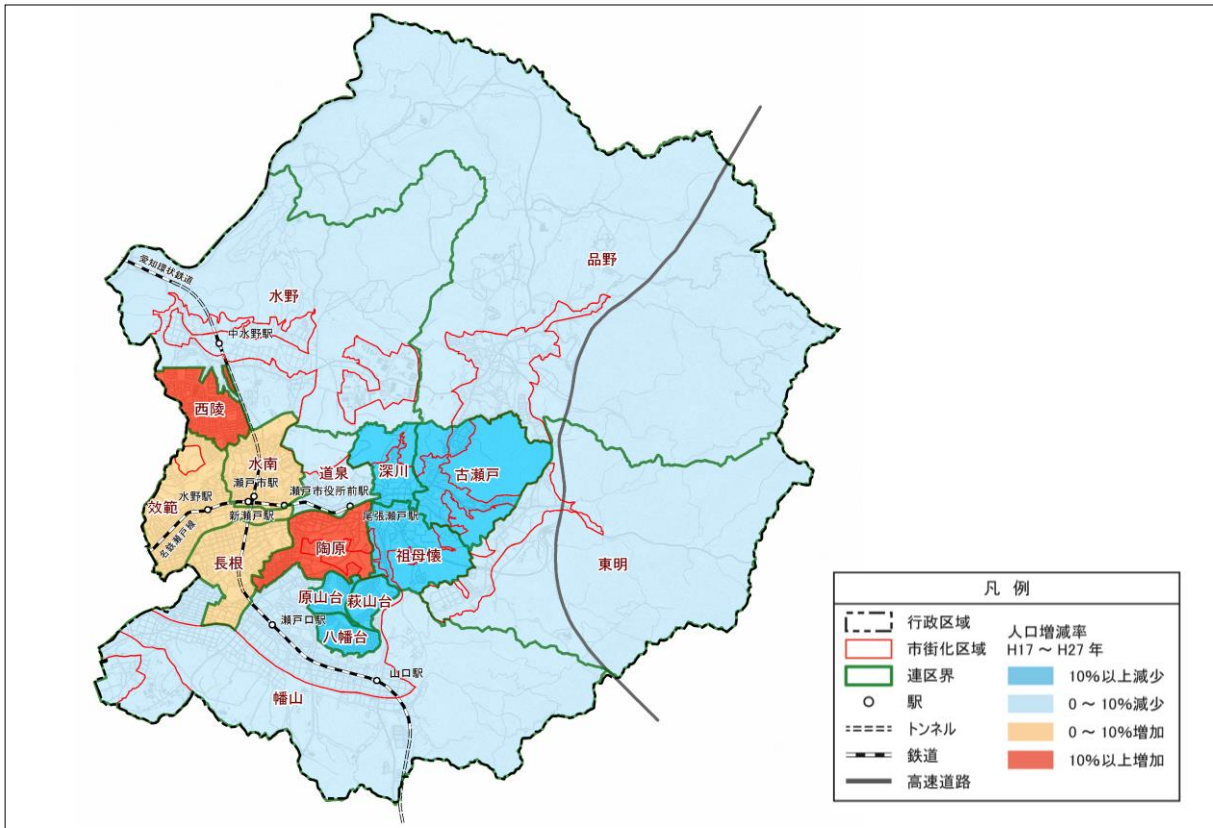
※▲：前回調査より増加 ▼：前回調査より減少

※高齢化の推移におけるH27の数値は33.3%以上(3人に1人が高齢者)を赤字表記している

※高齢化の推移における【H27 - H17】の数値は10.0%以上を赤字表記している

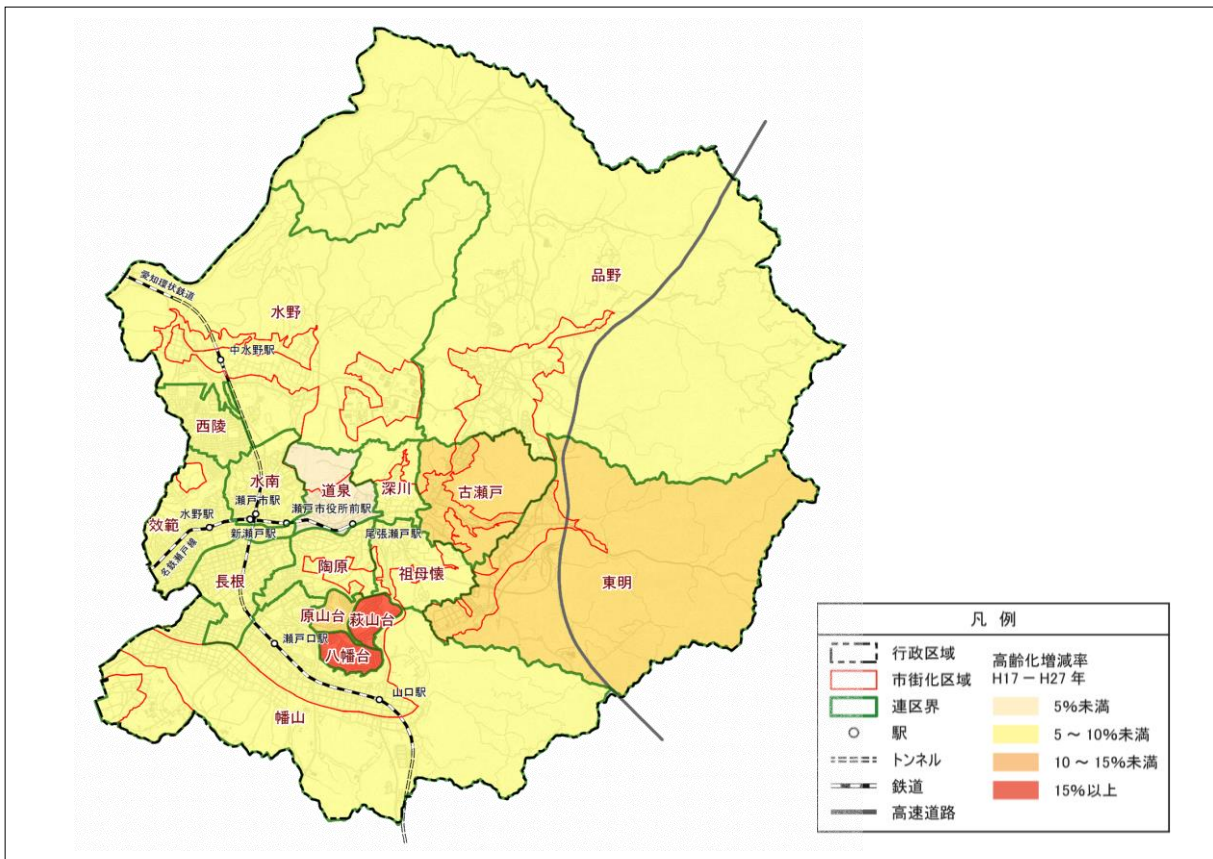
出典：瀬戸市統計書

■ 連区別人口の増減率 (H17→H27)



出典：瀬戸市統計

■ 連区別高齢化率の増加状況 (H17→H27)

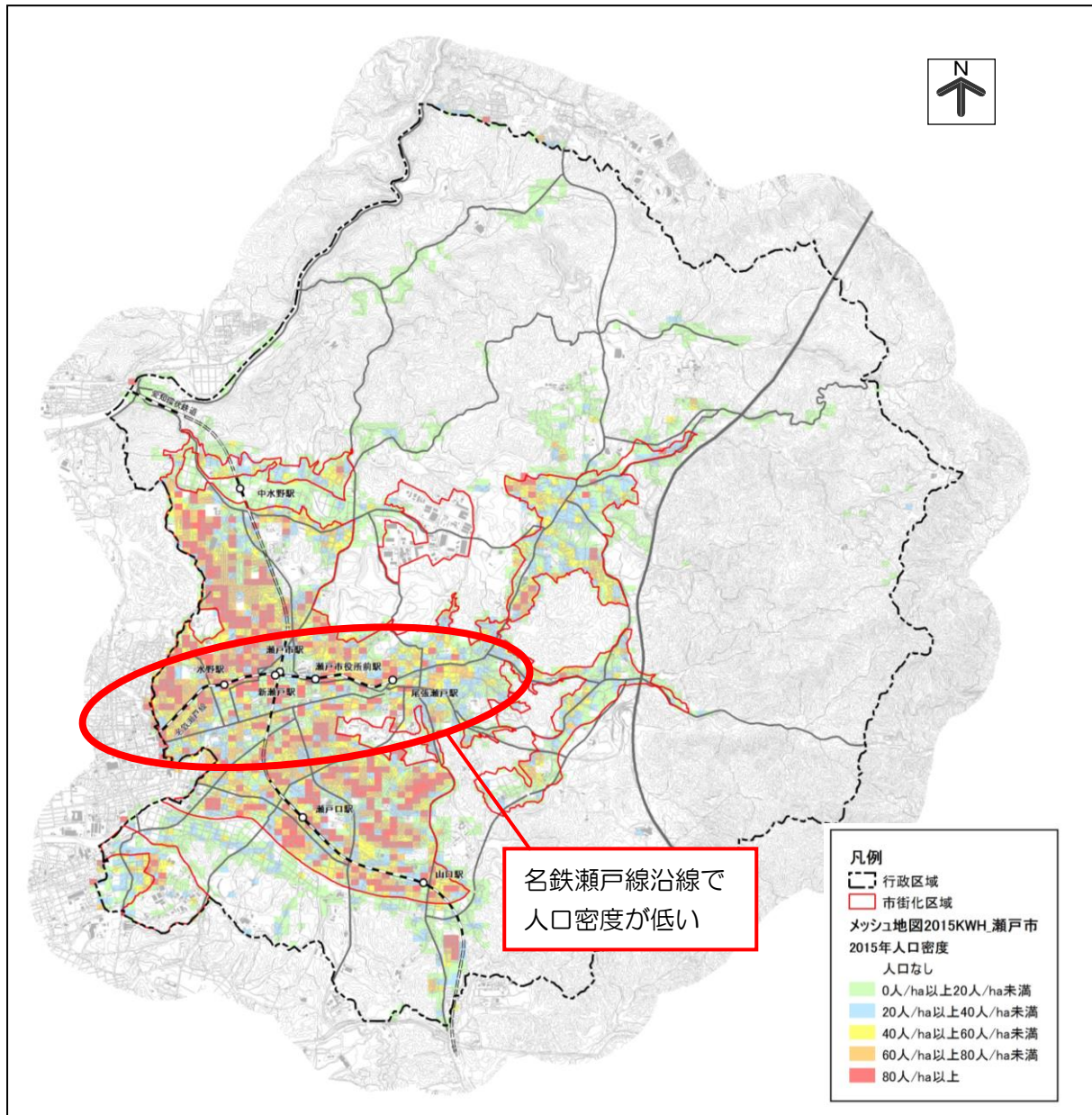


出典：瀬戸市統計

(3) 将来推計による人口密度の変化

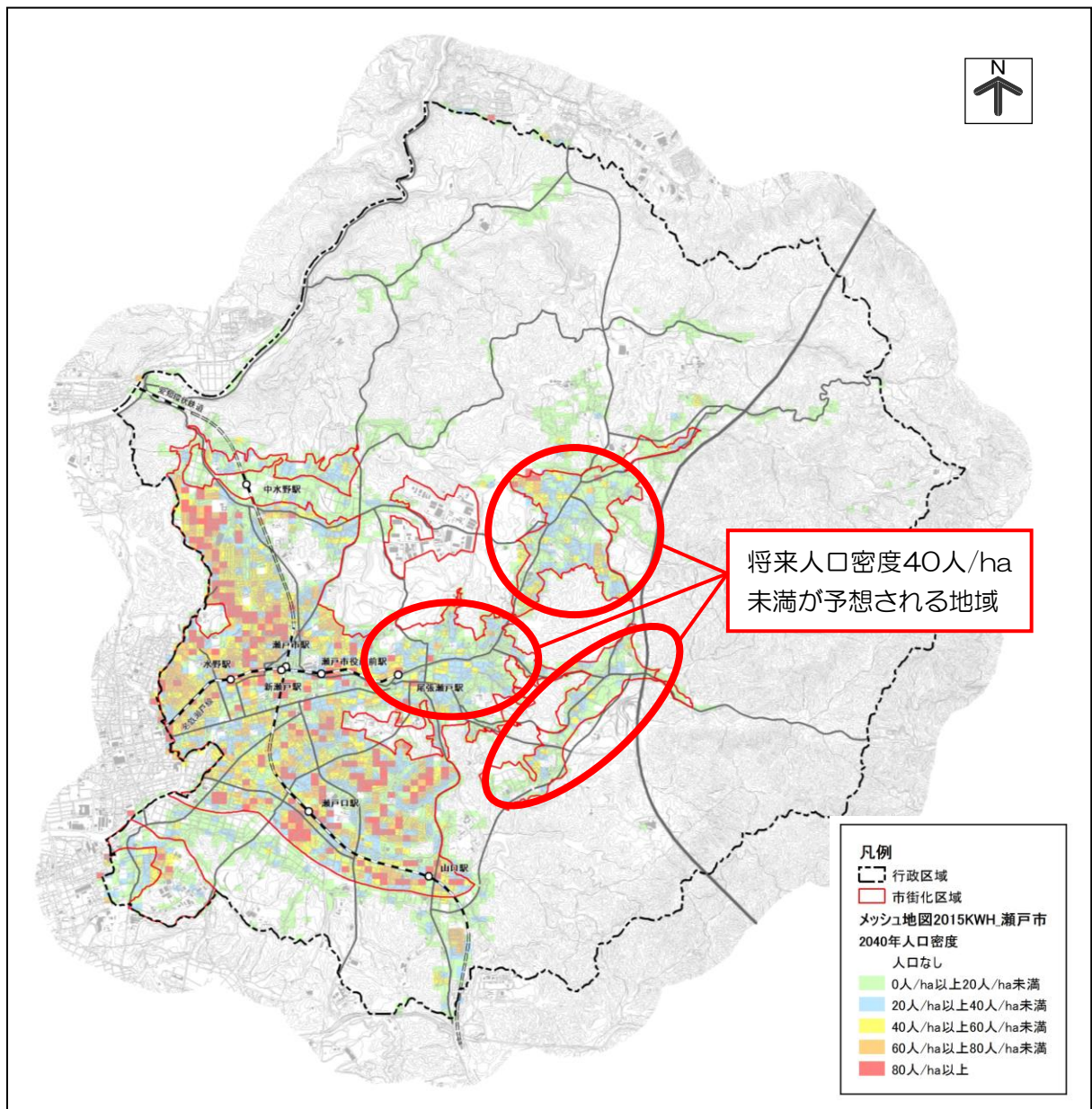
- 名鉄瀬戸線沿線の市中心部において人口密度が低くなっている。
- 2040年には尾張瀬戸駅よりも東側の市域のほとんどが人口密度40人/ha未満となる。

■ 現在の人口密度（2015年）



出典：平成27年国勢調査100mメッシュ推計データ（株式会社ゼンリンジオインテリジェンス）

■ 将来の人口密度（2040年）



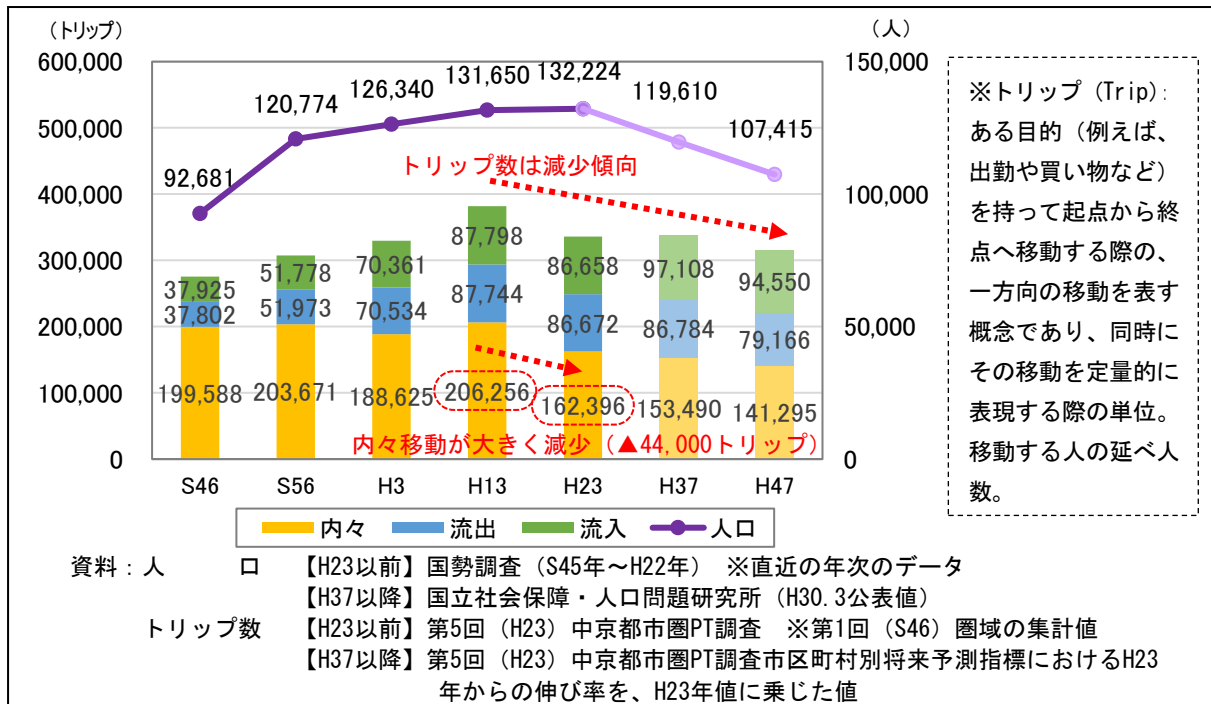
出典：平成27年国勢調査100mメッシュ推計データ（株式会社ゼンリンジオインテリジェンス）、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）を基に作成

2. 瀬戸市における人の動き

(1) トリップ数の推移

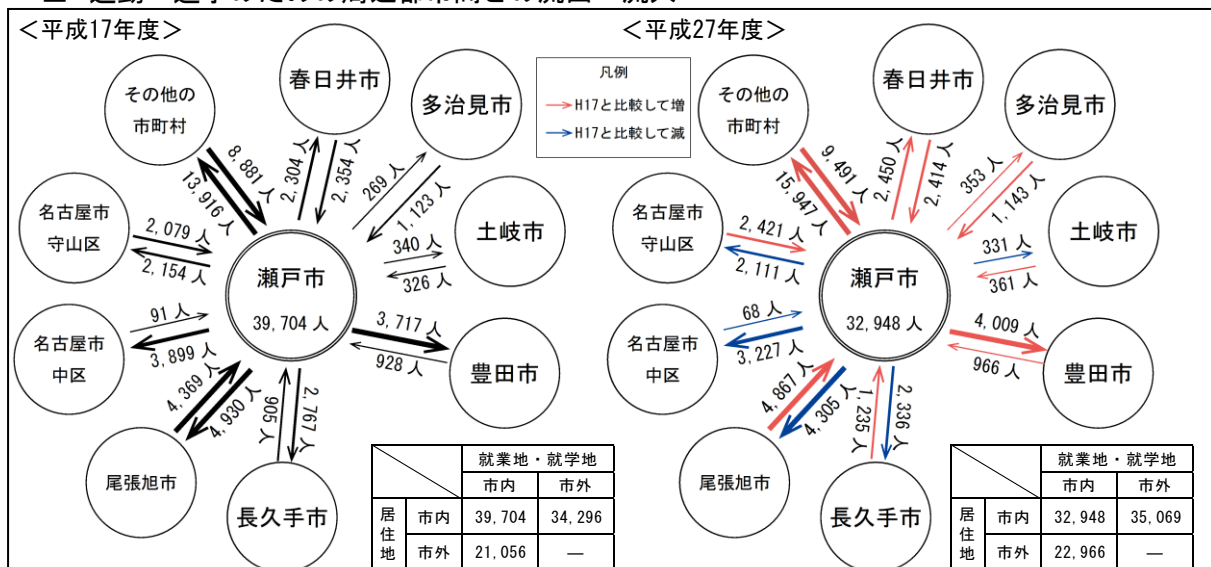
- 瀬戸市のトリップ数は、人口が横ばい傾向であった平成13年から平成23年の10年間で減少に転じている。市内のみを移動する「内々」のトリップ数は近年大きく減少し、都市間（流出、流入の合計）のトリップ数より少なくなっている。
- 通勤・通学のための周辺都市間との流出・流入は尾張旭市への流出、流入と、豊田市への流出が多いが、通勤・通学の数自体が減少傾向にある。

■ 瀬戸市のトリップ数の推移



出典: 都市交通マスタープラン

■ 通勤・通学のための周辺都市間との流出・流入

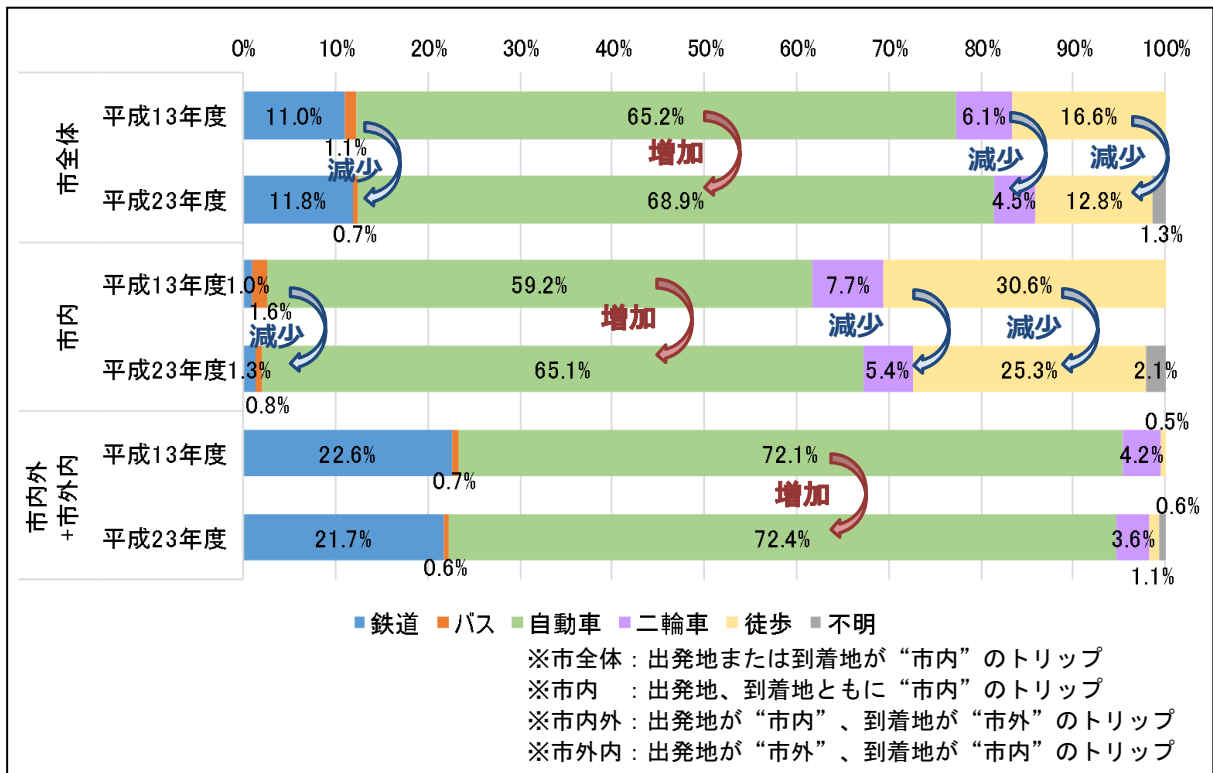


出典: 国勢調査

(2) 交通手段の推移

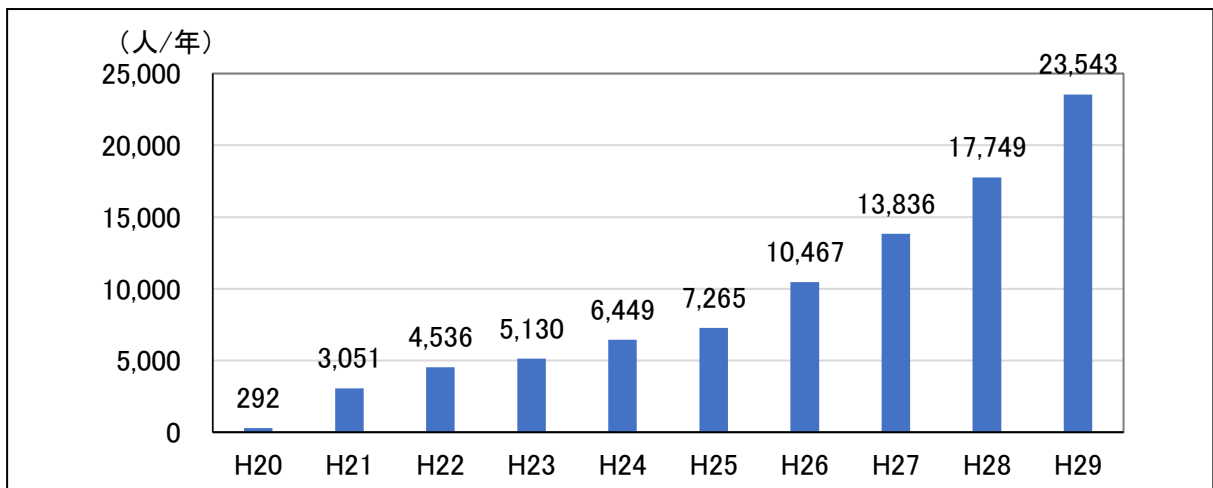
- 瀬戸市の平成23年の代表交通手段分担率は、自動車が最も高く68.9%を占める。
- 市全体の代表交通手段分担率は、自動車は増加、鉄道は微増しているが、バスや二輪車、徒歩は減少している。
- 市内の移動について、自動車利用の増加が著しい一方でバス利用は半減している。
- 運転免許返納件数は、年々増加している。

代表交通手段分担率の推移



出典：第4次、第5次中京都市圏パーソントリップ調査

申請による運転免許の取消（自主返納）件数の推移（愛知県）

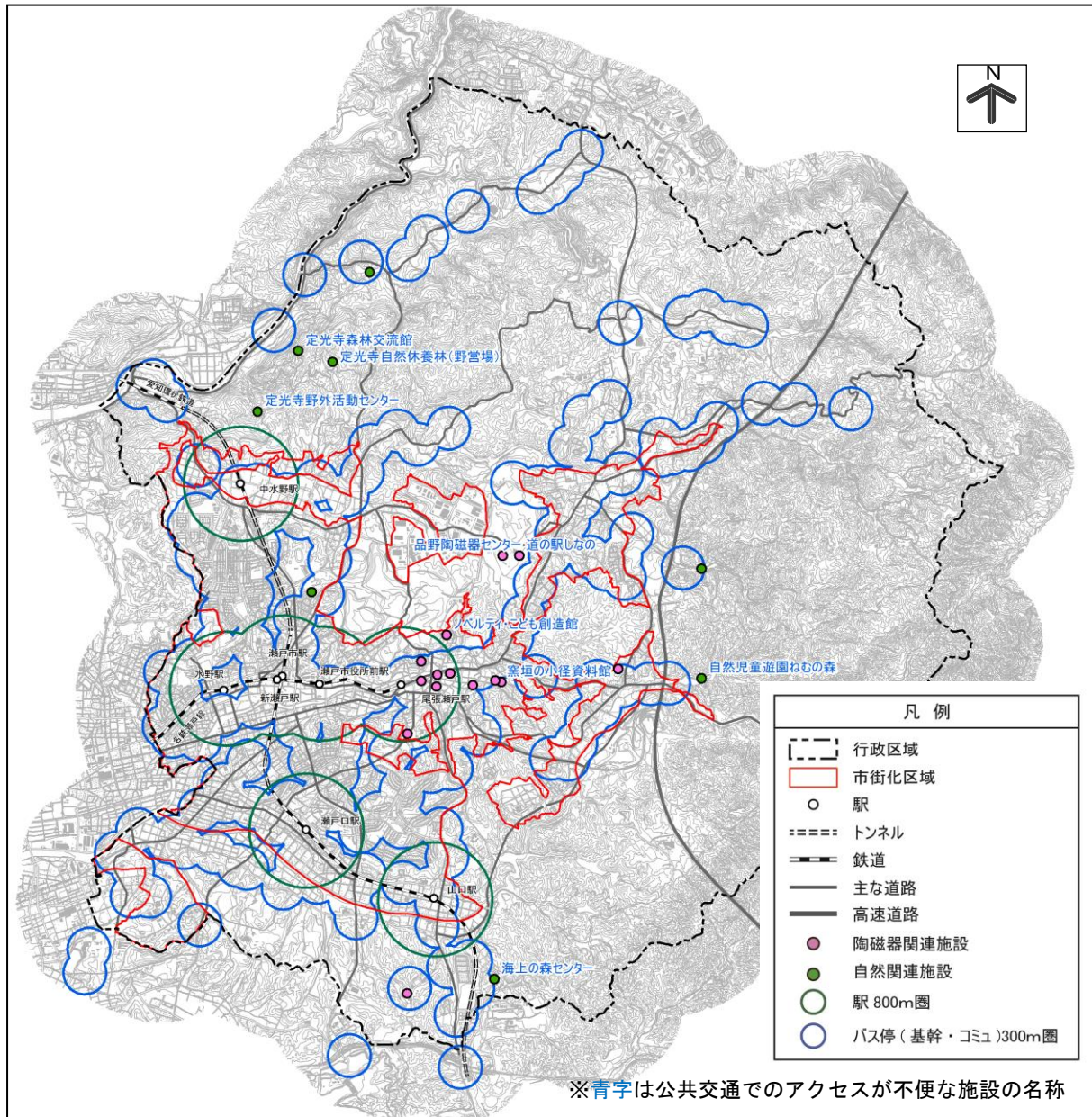


出典：警察庁交通局運転免許課 運転免許統計

(3) 観光交流

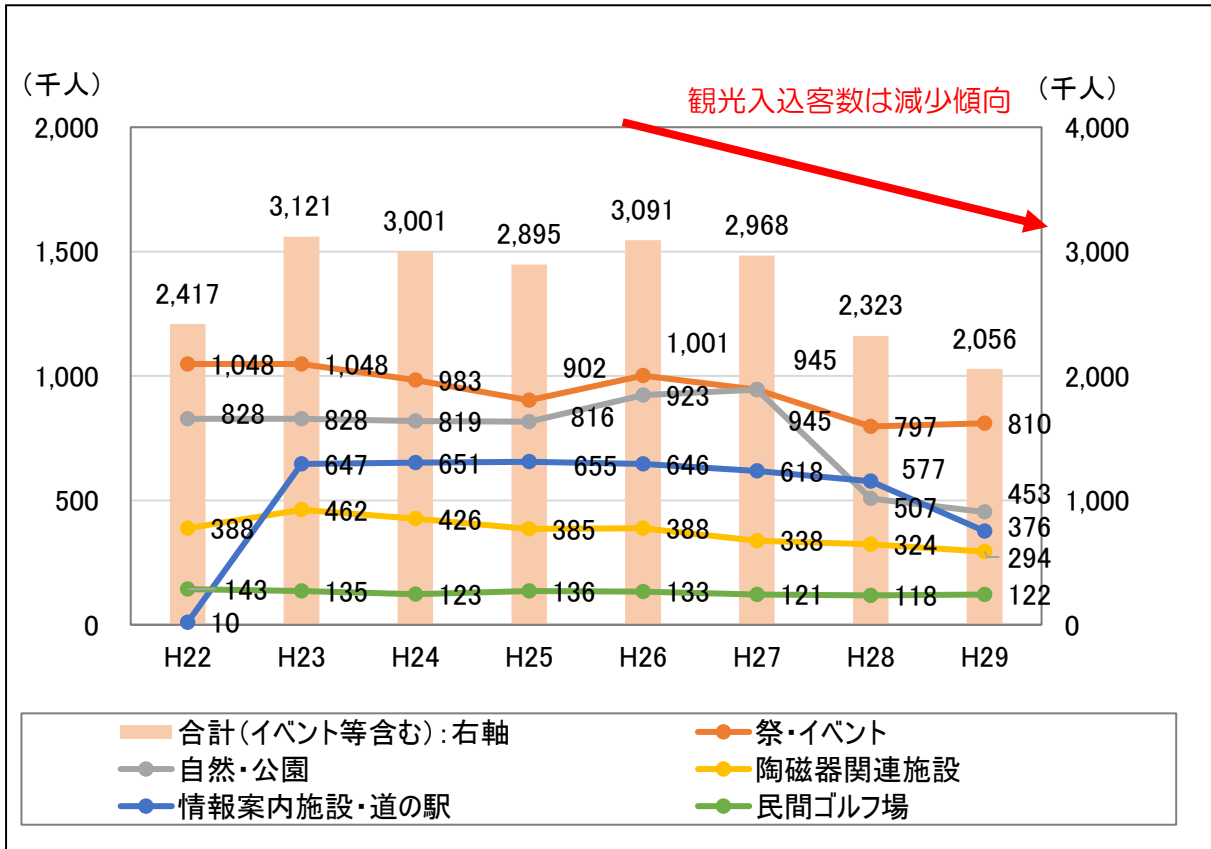
- 公共交通でのアクセスが不便な観光施設が存在する。
- 愛知県の観光入込客数が増加している一方、瀬戸市の観光入込客数は減少している。

■ 主要な観光施設



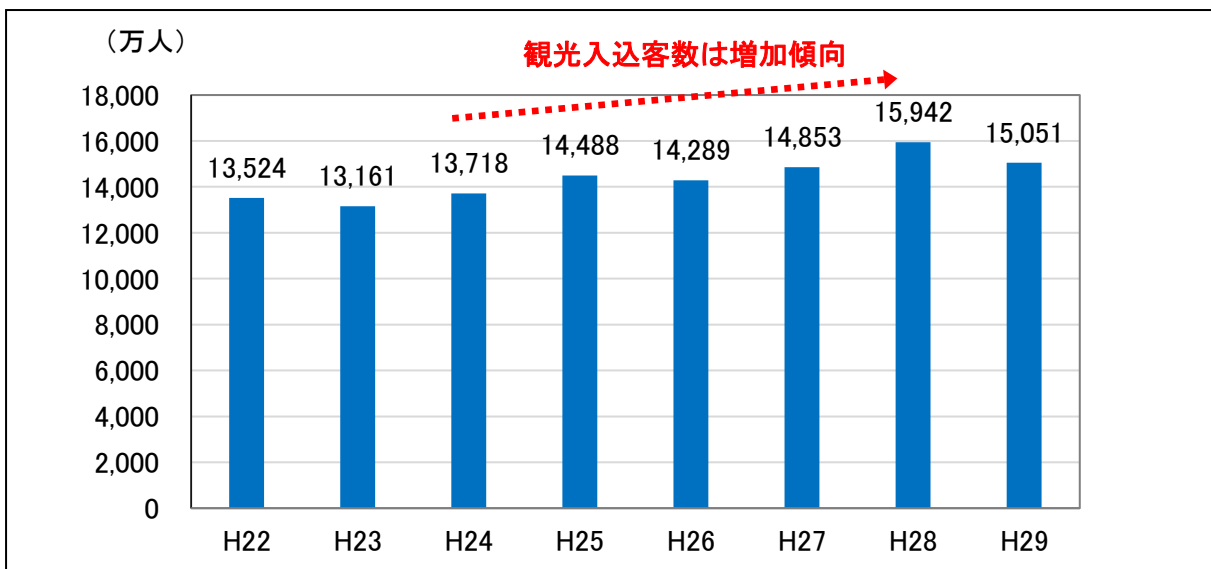
出典：都市交通マスタープラン

■ 瀬戸市観光入込客数の推移



出典：瀬戸市統計

【参考】愛知県の観光施設の観光入込客数



出典：愛知県観光レクリエーション利用者統計

3. 公共交通の現状

(1) 公共交通網の現状

- 瀬戸市の公共交通網は、名鉄瀬戸線と愛知環状鉄道を基軸とし、周辺都市を連絡する広域基幹バスや、拠点間を結ぶ市内基幹バス、これらに接続し居住地等を網羅的に運行するコミュニティバスにより形成されている。

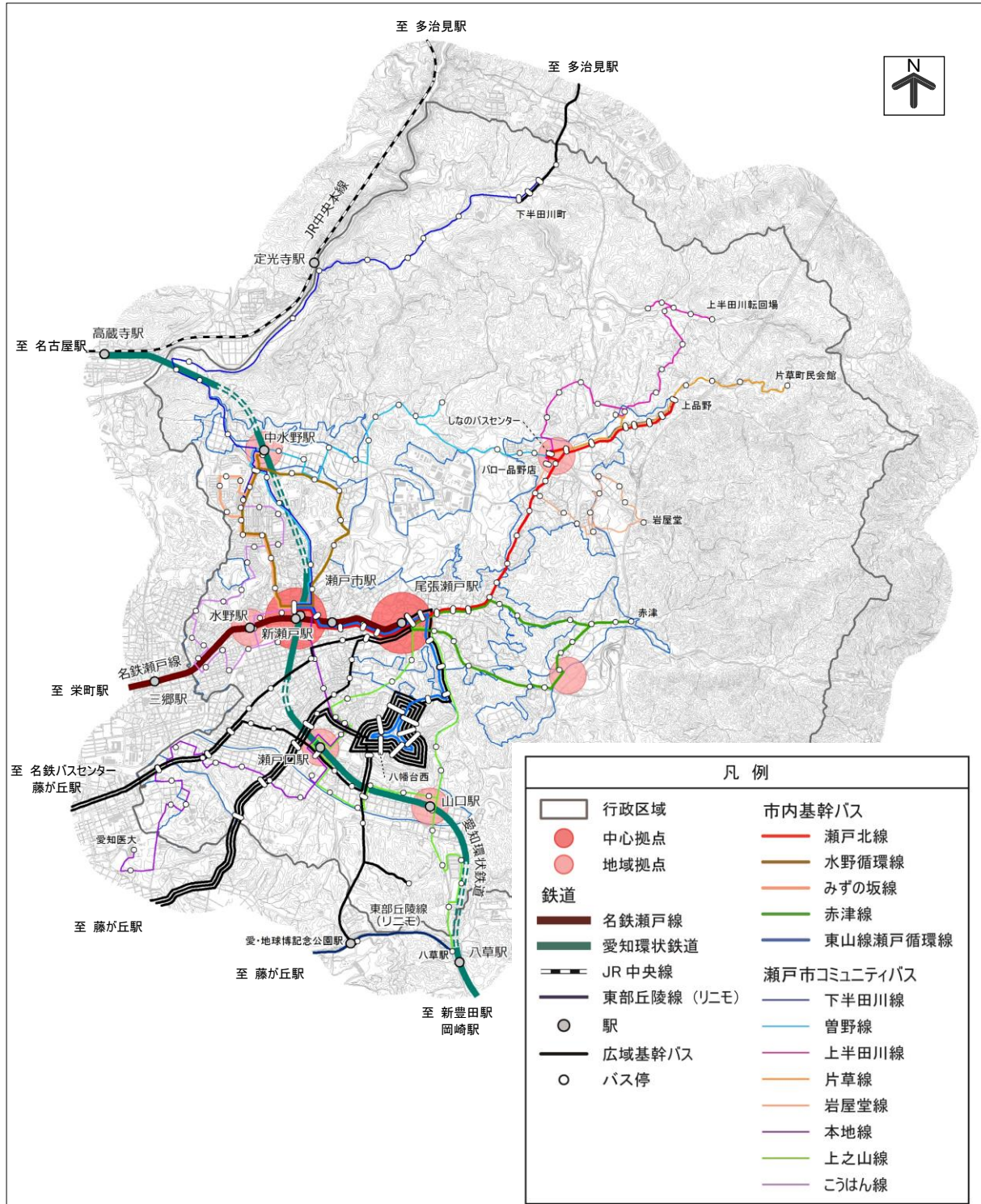


図 公共交通網の現状

出典：瀬戸市資料

(2) 鉄道の状況

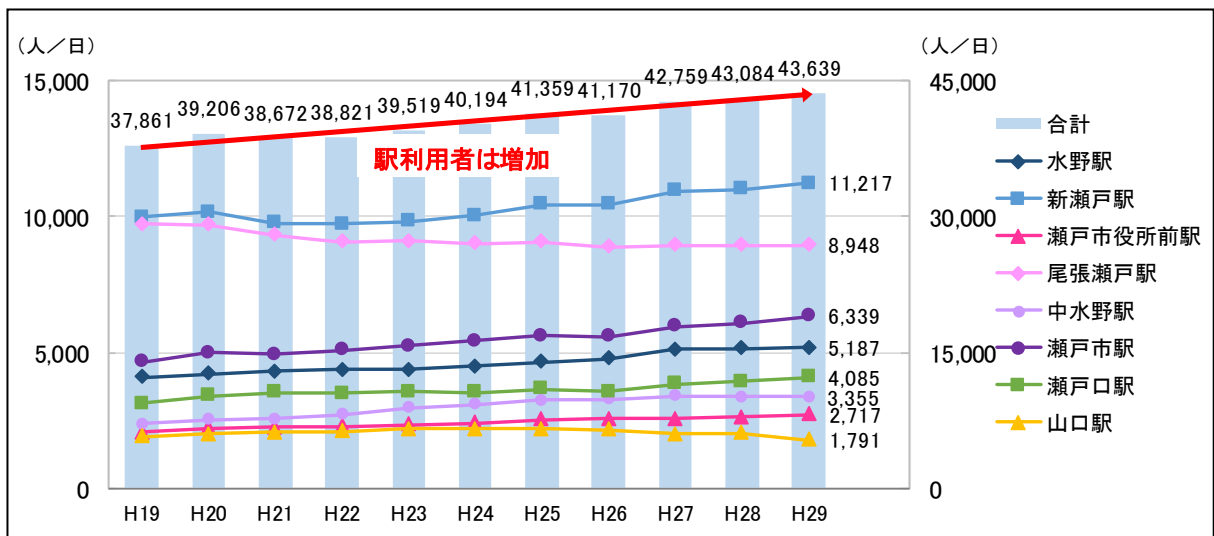
- 名鉄瀬戸線は、1時間平均で上下とも6便運行している。ピーク時は、上り9便、下り8便運行している。
- 愛知環状鉄道は、1時間平均で上下とも4便運行している。朝のピーク時には下りが6便運行しており、うち2便が乗り換えなしでJR名古屋駅へ直通運行している。
- 市内の駅利用者は増加傾向にある。

■ 市内鉄道路線の運行状況

路線名	名鉄瀬戸線	愛知環状鉄道	備考
運行便数(平日)	新瀬戸駅	瀬戸市駅	
1日	上り 114便(栄町方面) 下り 118便(尾張瀬戸方面)	上り 69便(岡崎方面) 下り 67便(高蔵寺方面)	※愛知環状鉄道によるJR名古屋駅への直通運行は、上り4本、下り2本
1時間平均	上り 6便 下り 6便	上り 4便 下り 4便	
ピーク時	上り 9便(7時台) 下り 8便(8時台)	上り 4便(7時台) 下り 6便(7時台)	※愛知環状鉄道下りには、JR名古屋駅への直通運行2便(瀬戸口発)を含む
運行時間帯(平日)	上り 5:26~23:13 下り 6:00~24:19	上り 6:06~24:10 下り 5:37~23:51	
ICカード	・10社の交通系ICカードの利用が可能	・ICカード導入予定(平成31年3月)	

出典：名古屋鉄道HP（平成28年9月17日改正）
愛知環状鉄道HP（平成30年3月17日改正）

■ 鉄道駅の1日あたりの平均的な利用者数の推移



出典：鉄道各社データ

(3) 広域基幹バス・市内基幹バスの状況

- 広域基幹バスは、瀬戸駅前（尾張瀬戸駅）や菱野団地を起終点とし、名古屋市内の名鉄バスセンターや藤が丘駅を連絡する名鉄バスの本地ヶ原線と東山線が運行している。また、下半田川と多治見駅を連絡する、東鉄バスの下半田川線が運行している。東山線と下半田川線は、1時間あたり1便以上運行している。
- 市内基幹バスは、新瀬戸駅や尾張瀬戸駅を起点とし、しなのバスセンターや赤津、水野団地や菱野団地とを連絡しており、1時間あたり1便以上運行している。
- 市内基幹バスの利用者数は、水野循環線を除き減少傾向となっている。
- 平成29年度の市内基幹バスの運行経費は約1億8,500万円であり、収支率は53.5%である。運行経費から運送収入等を除いた約8,600万円を市が負担している（市民一人あたり約660円の負担）（瀬戸北線、水野循環線・みずの坂線、赤津線が対象）。

■ 広域基幹バス・基幹バスの運行状況

(単位：便/片道平均)

路線名等		区間	運行便数				
			平日		土休日		
			上り	下り	上り	下り	
広域基幹バス	本地ヶ原線	名鉄バスセンター ~ 菱野団地	10	8	8	7	
		名鉄バスセンター ~ 瀬戸駅前	12	12	9	10	
	藤が丘	藤が丘 ~ 瀬戸駅前	9	9	9	9	
	東山線	藤が丘	藤が丘 ~ 瀬戸駅前	21	22	16	17
		藤が丘 ~ 菱野団地	27	26	24	22	
	愛・地球博記念公園	瀬戸駅前 ~ 愛・地球博記念公園駅	0	0	5	5	
下半田川線	下半田川 ~ 多治見駅前	15	15	11	13		
市内基幹バス	瀬戸北線	新瀬戸駅 ~ 上品野	9	8	9	7	
		新瀬戸駅 ~ しなのバスセンター	17	19	15	17	
		瀬戸駅前 ~ 上品野	1	2	0	3	
		瀬戸駅前 ~ しなのバスセンター	6	4	2	0	
	水野循環線	新瀬戸駅 ~ 中水野駅 ~ 新瀬戸駅	9	12	8	12	
	みずの坂線	新瀬戸駅 ~ 中水野駅	15	15	14	14	
	赤津線	瀬戸駅前 ~ 古瀬戸 ~ 赤津	5	5	5	5	
		瀬戸駅前 ~ 一里塚 ~ 赤津	15	15	12	12	
	東山線	瀬戸循環	菱野団地 ~ 新瀬戸駅	8	8	7	7
菱野団地 ~ 瀬戸駅前	41	48	30	32			

※瀬戸駅前、尾張瀬戸駅駅前広場内のバス停名

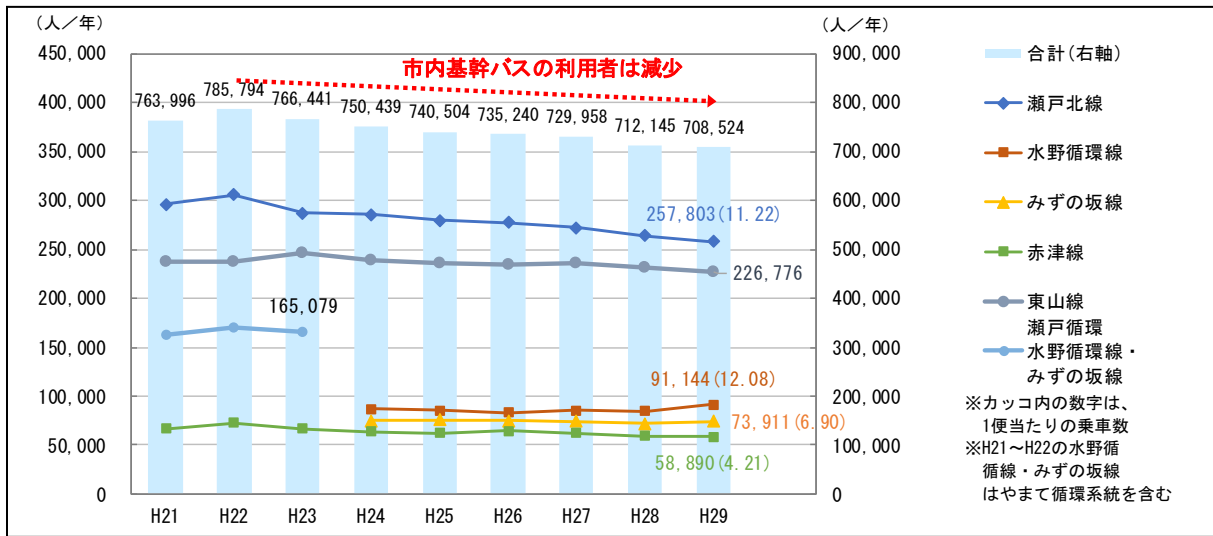
※運行便数は、上下別の便数の平均値（枠内の水色のグラフの長さは便数の多さを示す）

※ピンクの網掛けの路線・区間は、1日の片道あたり平均1便/時間以上（運行時間12時間以上）のもの

※名鉄バスは平成30年10月1日改正、東鉄バスは平成30年4月1日改正ダイヤを基に作成

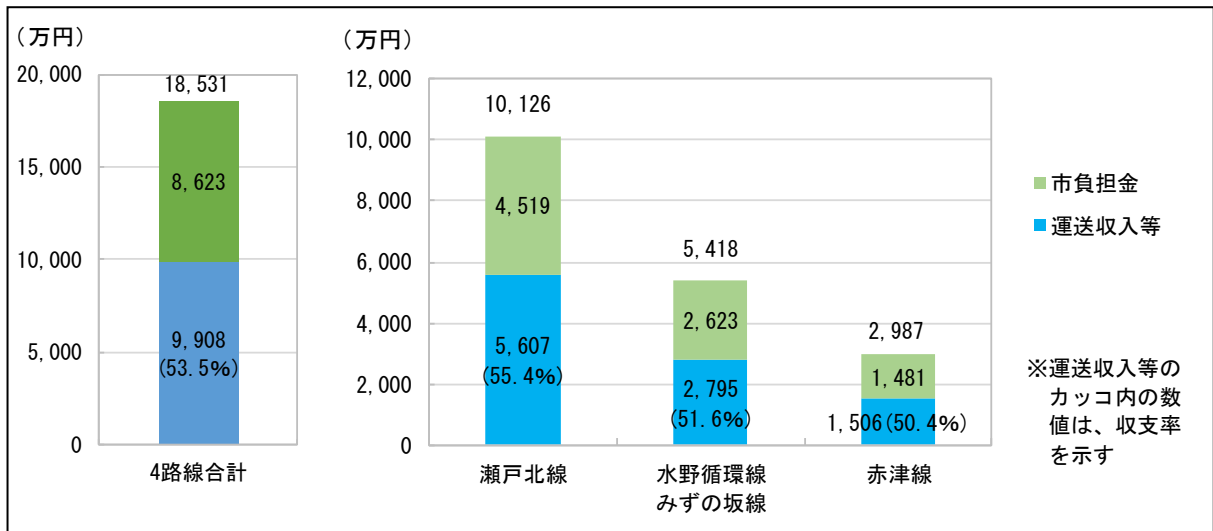
出典：名鉄バスHP、東鉄バスHP

■ 市内基幹バスの利用者数の推移（路線別年間利用者数）



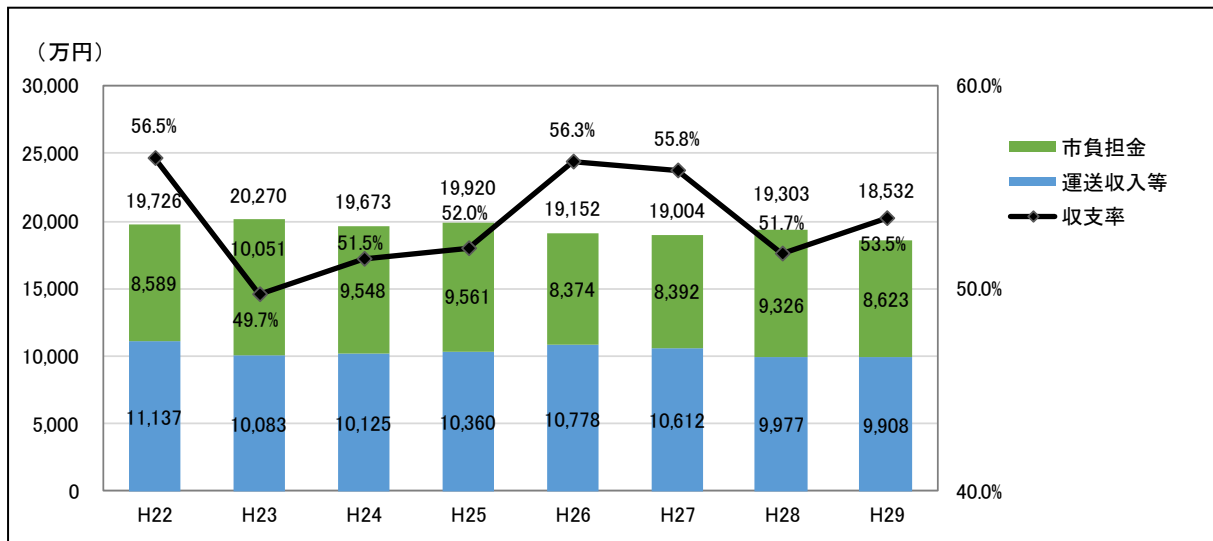
出典：瀬戸市資料

■ 市内基幹バスの収支の状況（平成29年度の路線別運行経費の内訳）



出典：瀬戸市資料

■ 市内基幹バスの収支の推移



出典：瀬戸市資料

(4) コミュニティバスの状況

- コミュニティバスは、8路線を5台で運行している。運行日や運行便数は路線により異なり、1日あたり5便～8便運行している。運賃は1乗車100円である。
- コミュニティバスの利用者数は、近年の路線の再編等によって増加傾向となっている。
- 平成29年度のコミュニティバス運行経費は約5,900万円であり、収支率は14.7%である。運行経費から運送収入等を除く約5,000万円を市が負担している（市民一人あたり約385円の負担）。
- 収支率を路線別にみると主に市街化調整区域を運行する路線が低い。
- 公共交通に係る市の負担は、基幹バスと合わせると約1億3,600万円であり、市民一人あたり約1,050円となる。

■ コミュニティバスの運行状況

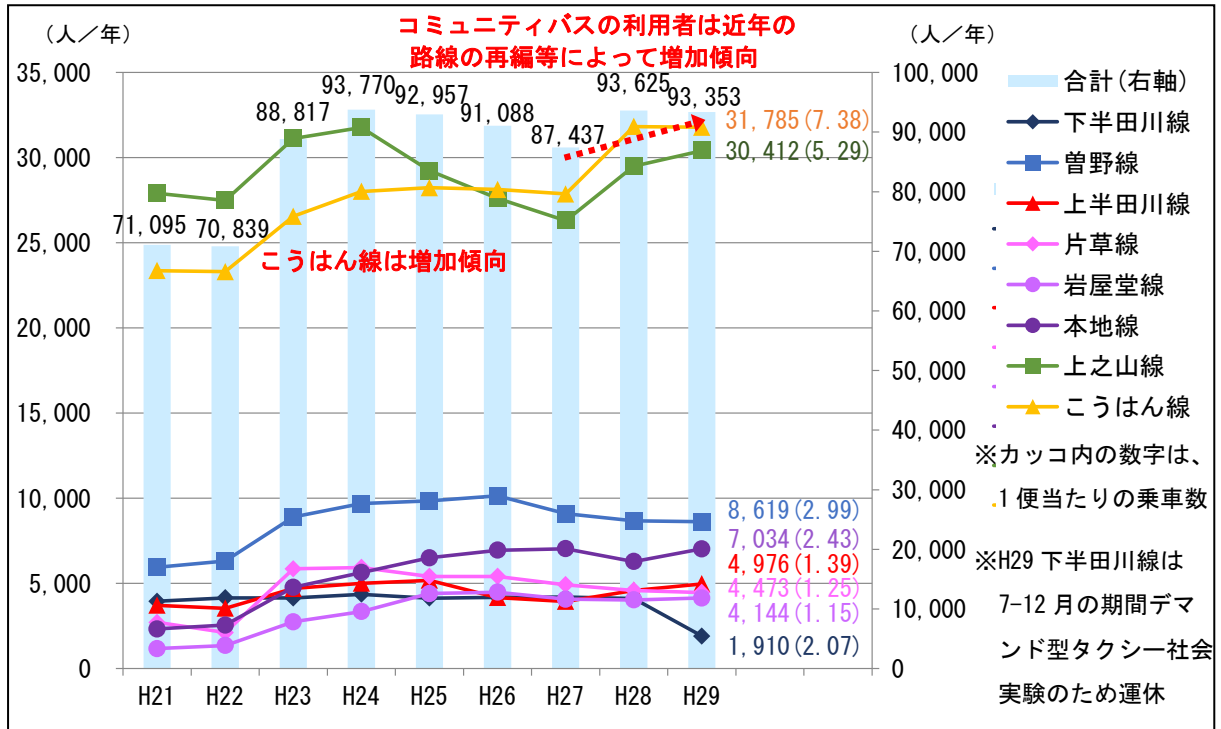
路線名	運行系統			系統 キロ程 (km)	運行日 (12月29日から 1月3日を除く)	運行回数		運行時間帯			
	起点	経由	終点			上り	下り	上り		下り	
								始発	終発	始発	終発
下半田川線	妻之神	中水野駅	新瀬戸駅	13.9	火・木・土曜日	1便	1便	7:40	15:35	8:14	16:07
	妻之神	中水野駅	水野支所	15.3		1便	1便				
	妻之神	中水野駅	イオン瀬戸みずの店	12.1		4便	3便				
	妻之神	イオン瀬戸みずの店	新瀬戸駅	16.2		0便	1便				
曾野線	しなのバスセンター	中水野駅	新瀬戸駅	10.5	月・水・金・日曜日	0便	1便	7:40	16:04	8:14	16:33
	しなのバスセンター	中水野駅	イオン瀬戸みずの店	8.7		6便	5便				
	しなのバスセンター	曾野農業倉庫	新瀬戸駅	12.2		1便	0便				
	しなのバスセンター	イオン瀬戸みずの店	新瀬戸駅	14.4		0便	1便				
上半田川線	上半田川転回場	しなのバスセンター	ハロー品野店	7.8	毎日	5便	5便	8:05	16:56	7:46	16:36
片草線	片草町民会館	しなのバスセンター	ハロー品野店	6.2	毎日	2便	2便	7:30	16:18	9:18	17:52
	片草町民会館	城前	ハロー品野店	6.2		3便	3便				
岩屋堂線	しなのバスセンター	【循環】	しなのバスセンター	9.0	毎日	5便		8:33	17:15	-	-
本地線	愛知医大	瀬戸口駅	陶生病院	13.0	月・火・木・土曜日	1便	0便	7:55	16:22	8:42	17:00
	愛知医大	瀬戸口駅	瀬戸口駅北口	9.6		6便	5便				
	愛知医大	保健所前	陶生病院	13.0		0便	2便				
上之山線	八草駅	瀬戸口駅	瀬戸駅前	11.9	毎日	6便	6便	8:02	17:54	8:55	18:29
	八草駅	宝ヶ丘町	瀬戸駅前	7.4		2便	2便				
こうはん線	イオン瀬戸みずの店	新瀬戸駅	陶生病院	10.5	毎日	6便	6便	8:00	16:02	8:52	16:54

出典：瀬戸市資料

● 運賃：1乗車100円

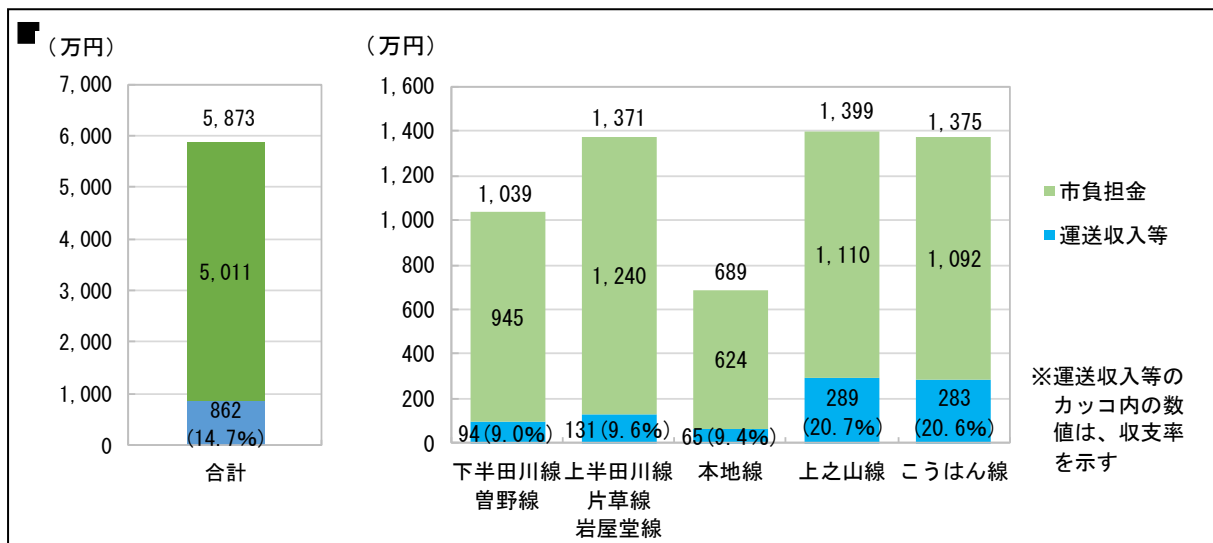
- ・ 幼児（1歳以上6歳未満の方）で、6歳以上の方に同伴される場合は、無料（幼児は2人まで）
- ・ 乳児（1歳未満の方）は無料
- ・ 障害者の方及び一定要件を満たす障害者の付き添いの方は普通旅客運賃の半額

■ コミュニティバスの利用者数の推移



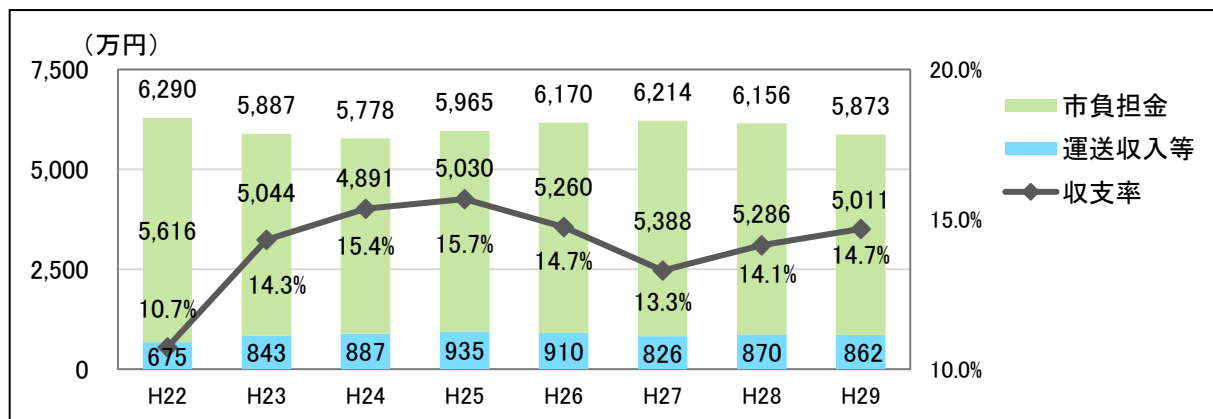
出典：瀬戸市資料

■ コミュニティバスの収支の状況（平成29年度の路線別運行経費の内訳）



出典：瀬戸市資料

■ コミュニティバスの収支の推移

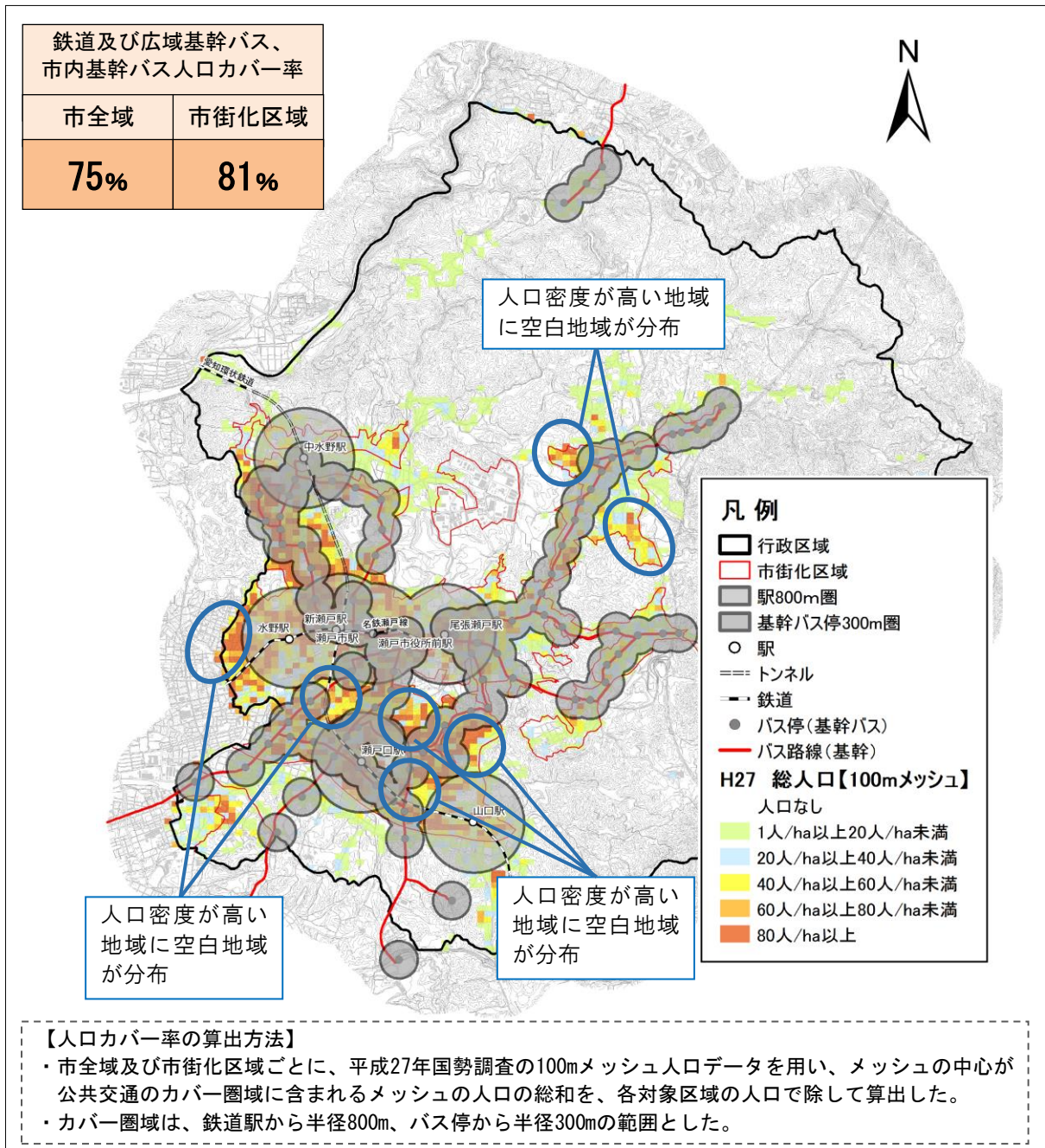


出典：瀬戸市資料

(5) 公共交通カバー率（公共交通空白地域）

- 鉄道及び広域基幹バス、市内基幹バスによる人口カバー率は、市全域が 75%、市街化区域が 81%となっている。
- コミュニティバス、菱野団地「住民バス」を含めた公共交通の人口カバー率は、市全域が 92%、市街化区域が 95%となっている。
- 公共交通は概ねの居住地をカバーできている。

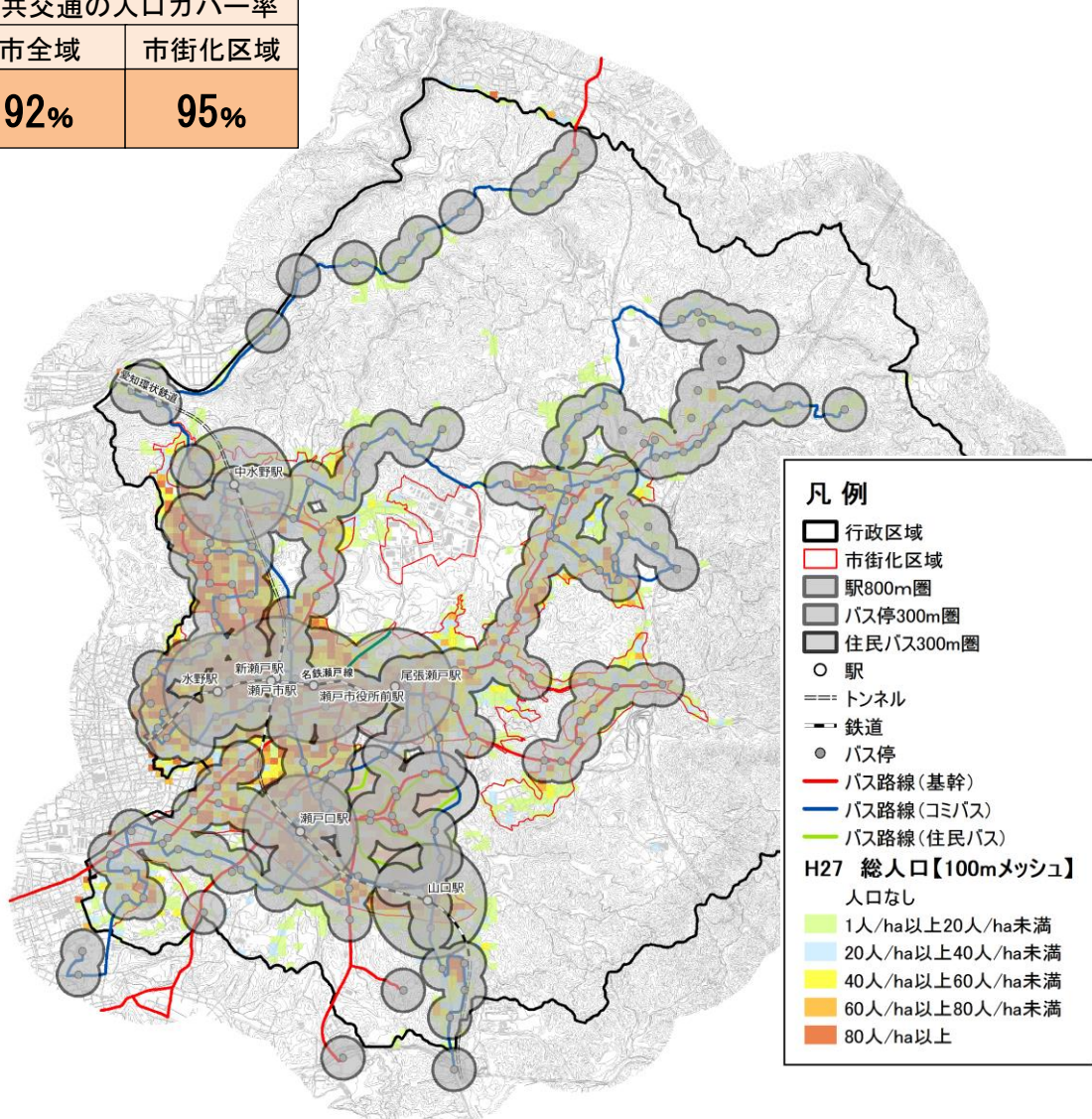
■ 鉄道及び広域基幹バス、市内基幹バスのカバー圏域及び人口カバー率



出典：平成27年国勢調査100mメッシュ推計データ（株式会社ゼンリンジオインテリジェンス）

■ コミュニティバス・住民バスを含む公共交通のカバー圏域及び人口カバー率

公共交通の人口カバー率	
市全域	市街化区域
92%	95%



【人口カバー率の算出方法】

- 市全域及び市街化区域ごとに、平成27年国勢調査の100mメッシュ人口データを用い、メッシュの中心が公共交通のカバー圏域に含まれるメッシュの人口の総和を集計し、各対象区域の人口で除して算出した。
- カバー圏域は、鉄道駅から半径800m、バス停から半径300mの範囲とした。

出典：平成27年国勢調査100mメッシュ推計データ（株式会社ゼンリンジオインテリジェンス）

(6) 高齢者等の移動を考慮した公共交通のカバー率

- 瀬戸市役所前駅の北側などで、人口密度が高いにもかかわらず、駅またはバス停から300m以遠の区域が存在する。

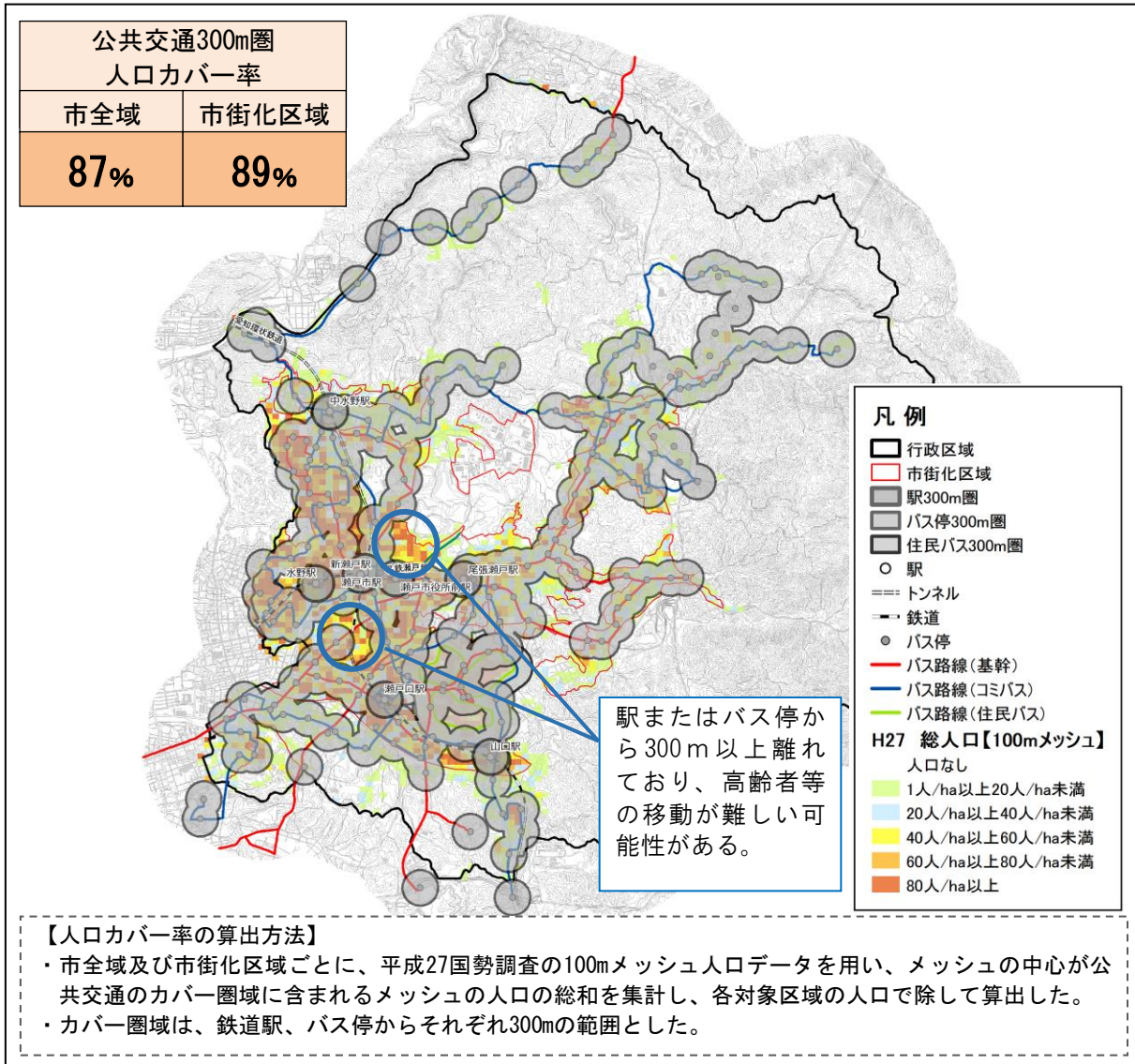
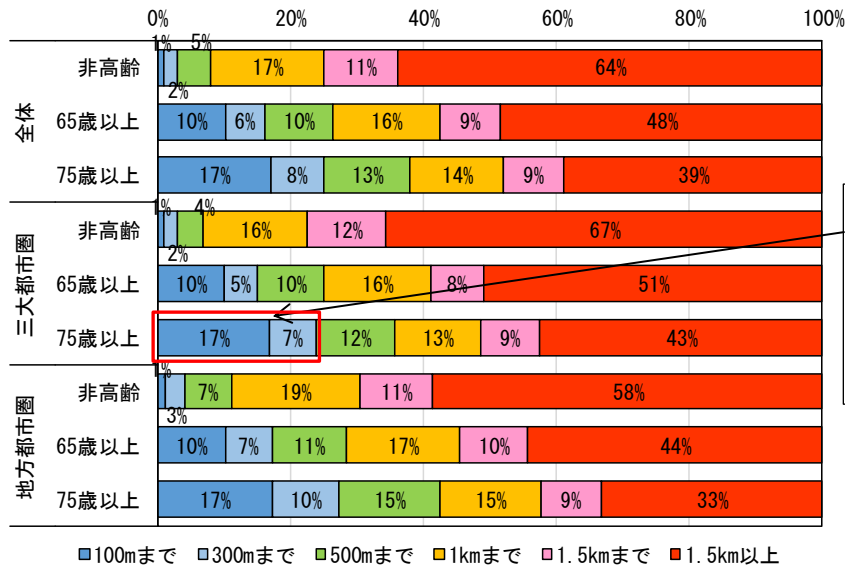


図 公共交通300mカバー圏域

出典：平成27年国勢調査100mメッシュ推計データ（株式会社ゼンリンジオインテリジェンス）

＜高齢者等が歩ける距離＞

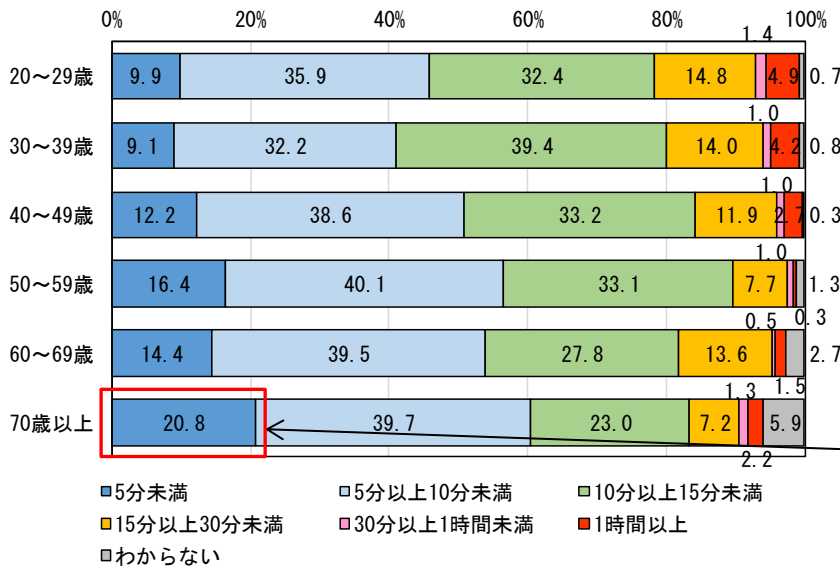
■ 高齢非高齢別にみた無理なく休まずに歩ける距離



75歳以上では約2割が300m以上は無理なく休まずに歩くことが出来ない

資料：国土交通省「全国都市交通特性調査（平成27年）」

■ 年齢階層別にみた自宅から駅やバス停までの許容距離

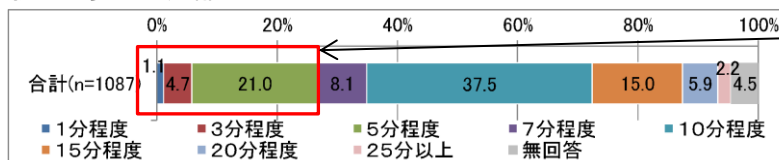


70歳以上では約2割が「駅やバス停までの許容距離」が「5分未満」（分速60mとして300m未満に相当）

資料：内閣府「世論調査報告書（平成28年）」

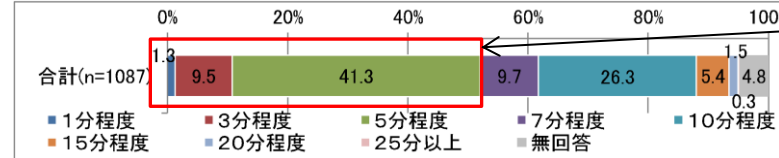
■ 瀬戸市民の駅やバス停までの許容距離

駅から歩ける距離



市民の約3割が「駅から歩ける距離」が「5分未満」（分速60mとして300m未満に相当）

バス停から歩ける距離



市民の約5割が「バス停から歩ける距離」が「5分未満」（分速60mとして300m未満に相当）

資料：瀬戸市民アンケート調査（平成28年）

4. その他の生活交通の現状

(1) 老人福祉センター送迎バス

- 社会福祉協議会が、やすらぎ会館老人福祉センターまで送迎バス（無料）を運行している。
- 送迎バスの空き時間を活用し、買い物支援バス（無料）の試行運行を実施している。

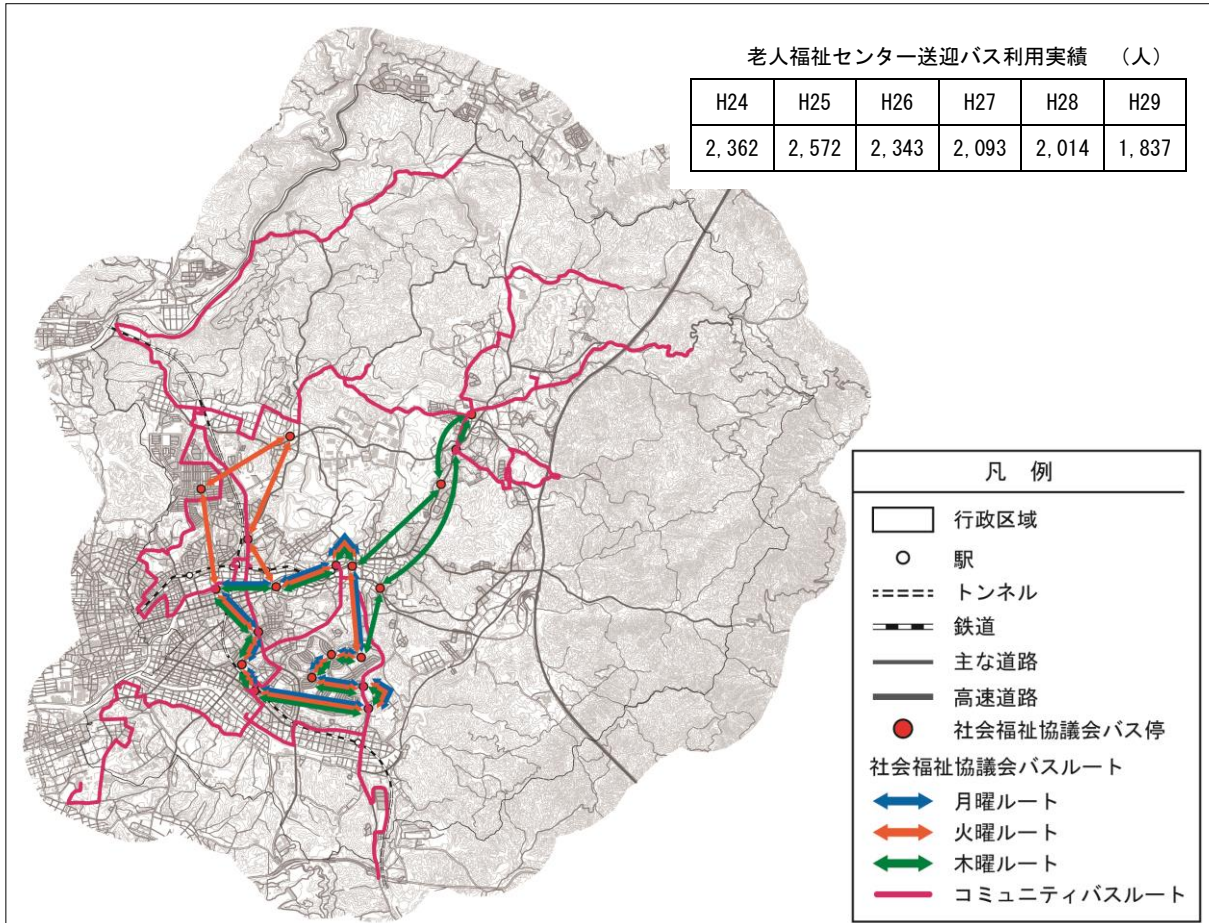


図 老人福祉センター送迎バスルート

出典：瀬戸市資料

	地区	東明		古瀬戸		品野	
	開催日 (平成30年)	7月 11日	12月 13日	7月 12日	12月 10日	7月 13日	12月 12日
	参加者数	22人	11人	3人	2人	8人	18人
	行先	アピタ瀬戸店		イオン 瀬戸み ずの店	アピタ 瀬戸店	イオン 瀬戸みずの店	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・バス降車時に、集合時間と集合場所を配布。 ・参加者に社会福祉協議会のバッジを渡し、店員にも分かるようにした。 ・セール日を避けて実施した。 						

図 買い物支援バス社会実験概要

出典：瀬戸市資料

(2) 大学スクールバスの住民利用

- 名古屋学院大学の送迎バスは、地域貢献の一環として地域住民も利用できるように、大学と市が連携している。利用は、周辺の一部自治会に限られ、事前登録と保険への加入を条件に無料で乗車でき、毎年約70の方が利用登録している。

路線	名古屋学院大学前～瀬戸市駅間（尾張瀬戸駅等を経由）				
対象者	上半田川自治会及び上品野自治会北山団地町内会町民				
利用証有効期間	1年間				
利用証発行状況		H27	H28	H29	H30
	上品野自治会北山団地町内会	47	48	54	50
	上半田川自治会	28	31	25	18

2018年度
名古屋学院大学
NGUバス時刻表
2018年4月1日～2019年3月31日

NGUバスの利用にあたって

- ◎利用される方は、早めにバス乗降場に来て待機してください。
- ◎途中乗降場での利用は、しっかりと手をあげて合図してください。
- ◎途中での降車は、車内のプザーで乗務員に合図してください。
- ◎途中乗降場は、瀬戸路線・高蔵寺路線ともに、通常運行ダイヤの下欄に記載してあります。高蔵寺路線は「中水野」から乗車可能です。
- ◎大学から「品野」へは、瀬戸路線を利用してください。
- ◎電車（中央線・瀬戸線）との連絡により、ダイヤを変更することがあります。
- ◎安全運行のため、一旦発車したバスは追いかけても停車しません。
- ◎バスの中に忘れ物をしたら、総合事務部に連絡してください。

(瀬戸路線) (月～金)8月2日～9月13日・10月26日・12月26日～27日・
2019年1月25日～3月29日(ただし、8月10日～15日・9月3日は休日運行)

■瀬戸市発						■大学発								
瀬戸市発	尾張瀬戸	宮前	中橋	古瀬戸	大学着	大学発	古瀬戸	中橋	尾張瀬戸	瀬戸市着				
8:40	8:47	8:48	8:49	8:51	9:10	7:55	8:06	8:07	8:11	8:25				
8:50	8:57	8:58	8:59	9:01	9:20	8:15	8:26	8:27	8:31	8:45				
10:28	10:35	10:36	10:37	10:39	10:58	9:53	10:04	10:05	10:09	10:23				
13:35	13:42	13:43	13:44	13:46	14:05	13:00	13:11	13:12	13:16	13:30				
15:50	15:57	15:58	15:59	16:01	16:20	15:15	15:26	15:27	15:31	15:45				
17:30	17:37	17:38	17:39	17:41	18:00	16:55	17:06	17:07	17:11	17:25				
18:05	18:12	18:13	18:14	18:16	18:35	17:30	17:41	17:42	17:46	18:00				
19:10	19:17	19:18	19:19	19:21	19:40	18:35	18:46	18:47	18:51	19:05				
21:00	21:07	21:08	21:09	21:11	21:30	20:25	20:36	20:37	20:41	20:55				

*印: 1月25日～3月22日の期間のみ運行します。

(瀬戸路線) (月～金) 4月2日～8月1日・9月14日～12月21日・2019年1月7日～1月24日
(ただし、4月30日・7月16日・9月17日・9月24日・10月8日・11月23日は臨時開講日のため通常運行)

■瀬戸市発						■大学発								
瀬戸市発	尾張瀬戸	宮前	中橋	古瀬戸	大学着	大学発	古瀬戸	中橋	尾張瀬戸	瀬戸市着				
8:30	8:37	8:38	8:39	8:41	9:00	7:45	7:56	7:57	8:01	8:15				
8:41	8:48	8:49	8:50	8:52	9:11									
8:47	8:54	8:55	8:56	8:58	9:17									
8:53	9:00	9:01	9:02	9:04	9:23									
9:40	9:47	9:48	9:49	9:51	10:10									
10:28	10:35	10:36	10:37	10:39	10:58	9:53				10:23				
11:45	11:52	11:53	11:54	11:56	12:15	11:10	11:21	11:22	11:26	11:40				
12:55	13:02	13:03	13:04	13:06	13:25	12:20	12:31	12:32	12:36	12:50				
13:30	13:37	13:38	13:39	13:41	14:00	12:55	13:06	13:07	13:11	13:25				
14:30	14:37	14:38	14:39	14:41	15:00	13:55	14:06	14:07	14:11	14:25				
15:50	15:57	15:58	15:59	16:01	16:20	15:15	15:26	15:27	15:31	15:45				
16:05	16:12	16:13	16:14	16:16	16:35	15:30	15:41	15:42	15:46	16:00				
17:30	17:37	17:38	17:39	17:41	18:00	16:55	17:06	17:07	17:11	17:25				
17:40	17:47	17:48	17:49	17:51	18:10	17:30	17:41	17:42	17:46	18:00				
18:05	18:12	18:13	18:14	18:16	18:35	17:05	17:16	17:17	17:21	17:35				
19:10	19:17	19:18	19:19	19:21	19:40	18:35	18:46	18:47	18:51	19:05				
20:00	20:07	20:08	20:09	20:11	20:30	19:25	19:36	19:37	19:41	19:55				
21:00	21:07	21:08	21:09	21:11	21:30	20:25	20:36	20:37	20:41	20:55				

▲印: 水曜日運休
▲印: 水曜日運休
途中乗降場(瀬戸路線)尾張瀬戸・宮前・中橋・古瀬戸・品野・
中品野・品野台小学校前・北山団地

(瀬戸・高蔵寺間路線) (土曜日・日曜日・祝日・大学の臨時休業日)
大学臨時休業日: 8月10日・8月13日～8月15日・9月3日
(ただし、4月30日・7月16日・9月17日・9月24日・10月8日・11月23日は臨時開講日のため通常運行)

*休日運行の「大学」バス停は、瀬戸路線のバス停です。

大 学		高 蔵 寺		瀬 戸 市		尾 張 瀬 戸		大 学	
着	発	着	発	着	発	着	発	着	発
-	7:45	9:00 (期8:15)	9:20	9:26	10:00	9:45			
11:15	12:30	10:50	13:00	10:30	13:26	13:45			
15:30	16:10	15:05	16:40	14:45	17:06	17:25			
19:00		18:35	18:15	18:15	18:00	17:45			

(注)「尾張瀬戸」の乗り場は、瀬戸川南側です。

名古屋学院大学
瀬戸キャンパス総合事務部
電話 0561-42-0350
http://www.ngu.jp/

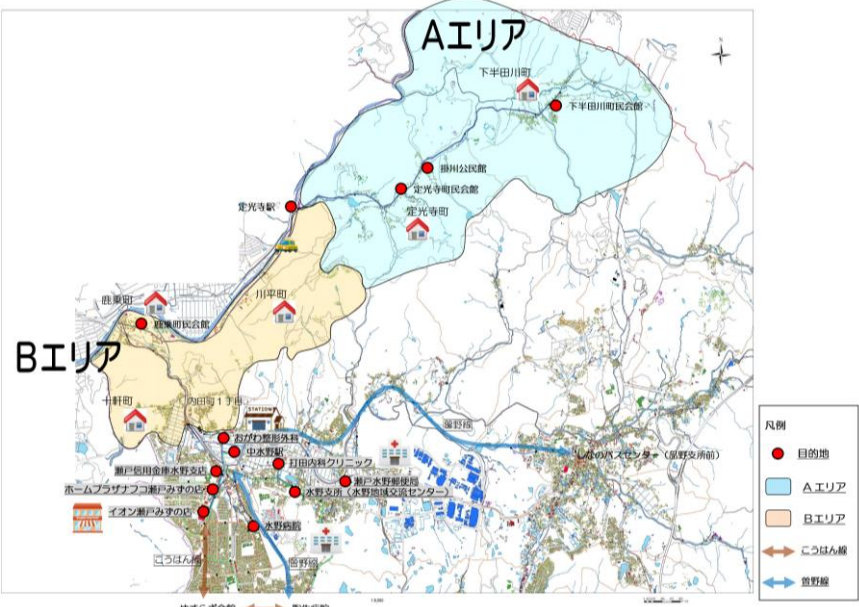
図 名古屋学院大学送迎バス概要

出典：名古屋学院大学・瀬戸市資料

5. コミュニティ交通社会実験

(1) 下半田川線地域「デマンド型タクシー」社会実験

- 実験結果として、自宅前で乗降できるなど、利便性が向上したとの意見があるものの、既存の瀬戸市コミュニティバス下半田川線と比較すると利用者は4割程度に留まる結果となった。
- 今後、持続可能な公共交通を形成するために、地域一体となった利用促進や収支率を向上させる工夫等を検討する必要がある。

実施日時	平成29年7月1日～12月28日 火・水・木・土運行
利用方法	あらかじめ電話で「いつ、どこからどこまで乗りたいか」を予約して利用
運行エリア	<p>下図のエリア及び、予め設定されている目的地（駅、商業施設、病院、公共施設）</p> 
運賃	一乗車300円（幼児・障害者は割引あり）
車両	タクシー車両（乗車定員4名）
運行本数	中水野駅到着時刻、発車時刻を設定し6便/日で運行
目的地	中水野駅、定光寺駅、イオン瀬戸みずの店、ホームプラザナフコ瀬戸みずの店、水野病院、打田内科クリニック、おがわ整形外科、水野支所、水野地域交流センター、掛川公民館、鹿乗町民会館、定光寺町民会館、下半田川町民会館、瀬戸信用金庫水野支店、瀬戸水野郵便局
その他	期間中、コミュニティバス下半田川線の運行は休止。
利用状況	登録者数 59人 33世帯 のべ利用者数832人 （運行日数 101日間）

【実施の背景】

下半田川地域は、山間部における高低差のある土地に加え利用者の多くが高齢者であることからバス停までの移動に困難が生じていたことや、空気バス（誰も乗っていない運行している状態）の発生率が高かったことから、利便性の向上、収支率の改善を目的に平成29年7月から半年間、コミュニティバスを休止し、事前予約により自宅等から商業施設・病院等の市が予め指定した目的地まで乗合タクシーで移動可能な「デマンド型タクシー」の社会実験を実施した。

(2) 菱野団地内における地域主導型交通「住民バス」

- 社会実験では、地域がひとつにまとまり住民主体の運行が適切に行われ、団地内移動の確保が図られるとともに住民の交流促進の視点でも効果がみられた。
- 利用者数は日を追うごとに増え、延べ利用者数は 4,966 人であった。(1日あたり 40.4 人)
- 実験終了後のアンケートでは、住民バスの必要性を感じる方が多く、平成 30 年 8 月から運行を再開している。一方で、住民バスの運行を持続可能なものとするため、運行協議会(任意団体)による無償運行から NPO 等による自家用有償旅客運送へ移行し、収益の確保を検討している。

実施日時	平成29年7月10日から12月26日
運行本数	9月30日まで：週6日運行(日・祝日運休) 10月2日から：週5日運行(水・日・祝日運休)
運行主体	菱野団地コミュニティ交通運行協議会(自治会、地域力向上協議会、交通事業者、瀬戸市)
運行エリア	<p> → 菱野団地「住民バス」ルート → 名鉄バスルート(菱野団地循環、東山線等) ■ 交通空白地域 ★ 住民バス バス停留所 ● 名鉄バス バス停留所 <small>※外周道路は安全な箇所を自由乗降</small> <small>※ 鉄道駅から半径800m、バス停から半径300mの範囲外の地域</small> </p>
運賃	無料
車両	低速電動バス(eCOM-8)及び普通乗用車(ワゴンタイプ)20km/h未満で走行
利用者数	運転手(有償ボランティア)登録者数：15人 利用登録者数：585人 のべ利用者数：4,966人(1日あたり40.4人)

【実施の背景】

団地内では著しい高齢化の進展とともに、高低差の多い丘陵の土地に加え公共交通空白地域(駅800m、バス停300m圏外の区域)が存在することで、十分な輸送サービスが確保されておらず、住民の外出機会創出のため、生活交通の確保が求められていた。

そこで、菱野団地の外周・主要道路を通り、商店街・病院・NPO施設や名鉄バス停留所、タクシーのりばなどへの団地内の移動の確保を目的に住民自らが運行を行う地域主導型交通の社会実験を平成29年に行い、必要性が確認されたため、運行を再開している。

6. 公共交通に対する市民の意識

(1) 市民アンケート結果

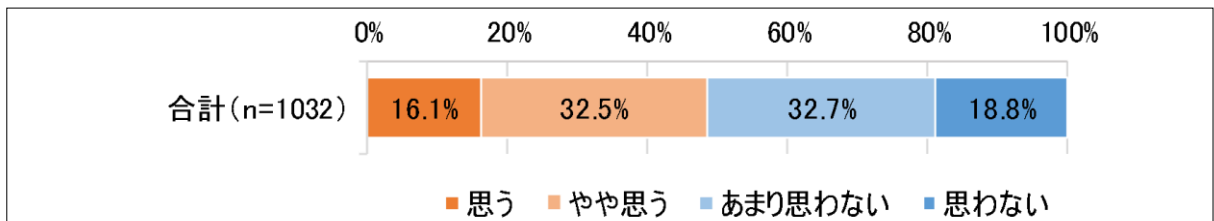
- 約 49%の人が公共交通に満足（満足だと思う＋やや思う）している。
- 路線バス、コミュニティバスの不満利用者は、「運行本数が少ない」とする人が7割以上と多く、非利用者は「バスのダイヤやルートなどの情報が分からない」とする人が多い。
- バスの意義は、「子供や高齢者にとっての移動手段」「自分のもしものときのため」「家族や知人のもしものときのため」の意義を認める人が多い。
- バスの費用負担の在り方は、「現在の運行を維持・市の負担は現状」が約5割と多い。
- バスで行きたい施設は、市内施設では陶生病院、商業施設、図書館等が挙げられている。
- 駅から無理なく歩ける距離は、10分程度が最も多く、バス停から無理なく歩ける距離は、5分程度が最も多い。

■ 調査概要

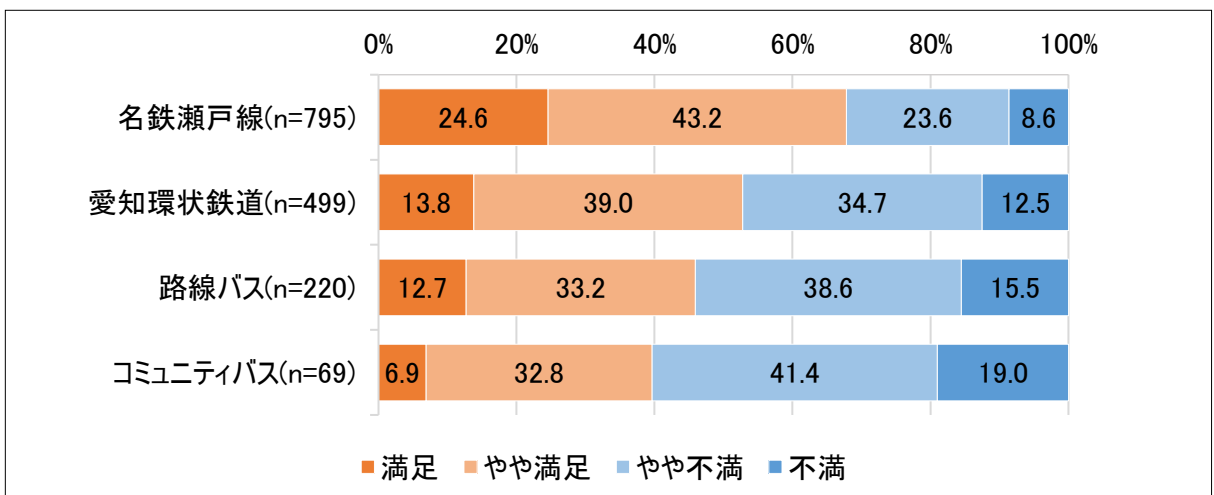
調査日時	平成28年7月27日、8月10日（郵送配布、郵送回収）
調査対象	15歳以上の市民
配布票数	3,000票
回収票数	1,087票（回収率約36.2%）

■ 調査結果

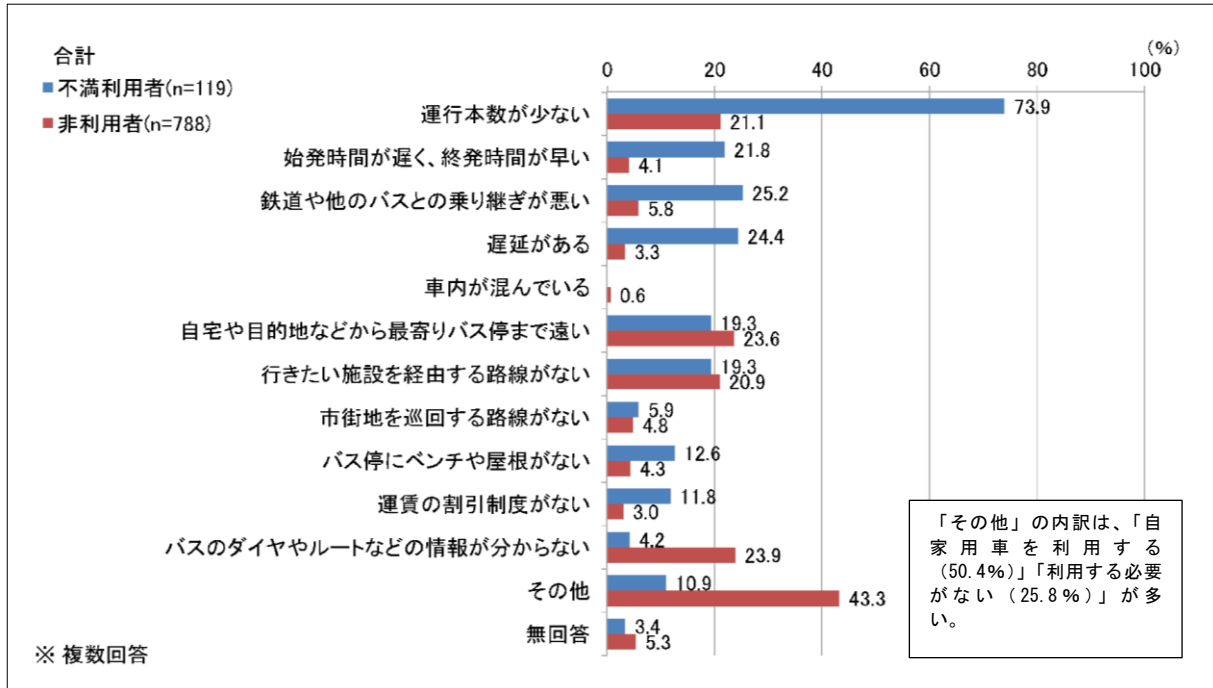
<公共交通に対する満足度>



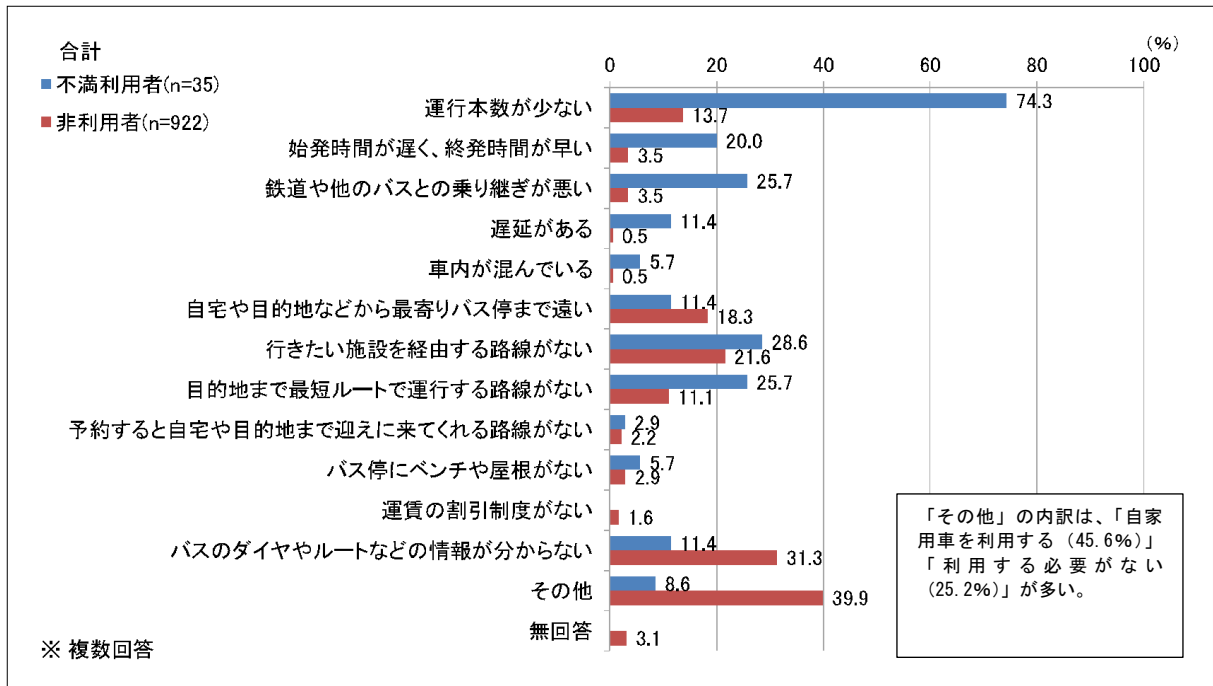
<名鉄瀬戸線、愛知環状鉄道、路線バス、コミュニティバスの利用しやすさ>



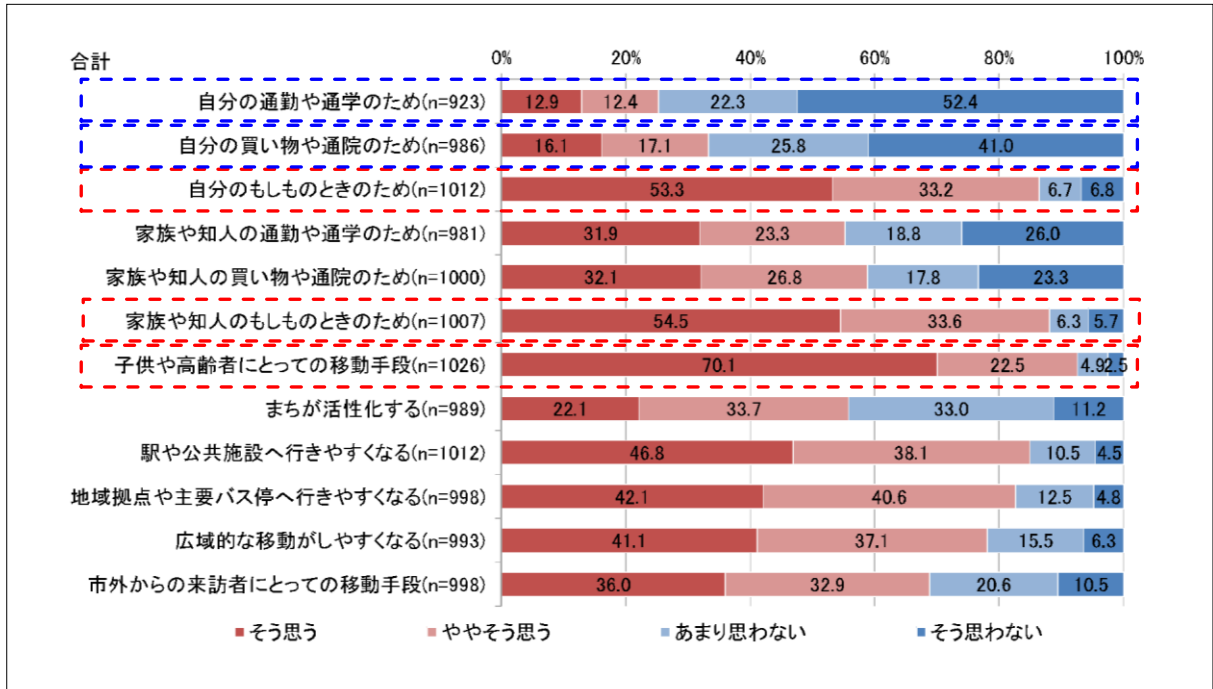
<路線バスの不満な理由、利用しない理由>



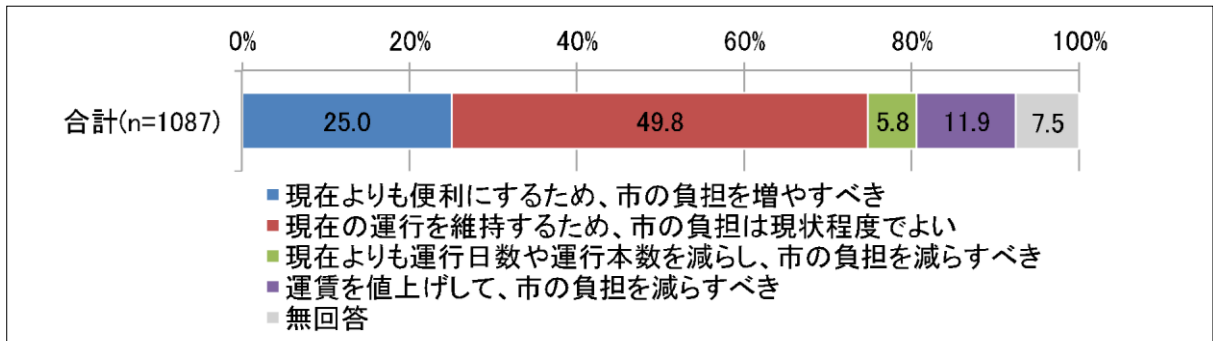
<コミュニティバスの不満な理由、利用しない理由>



<バスの意義>



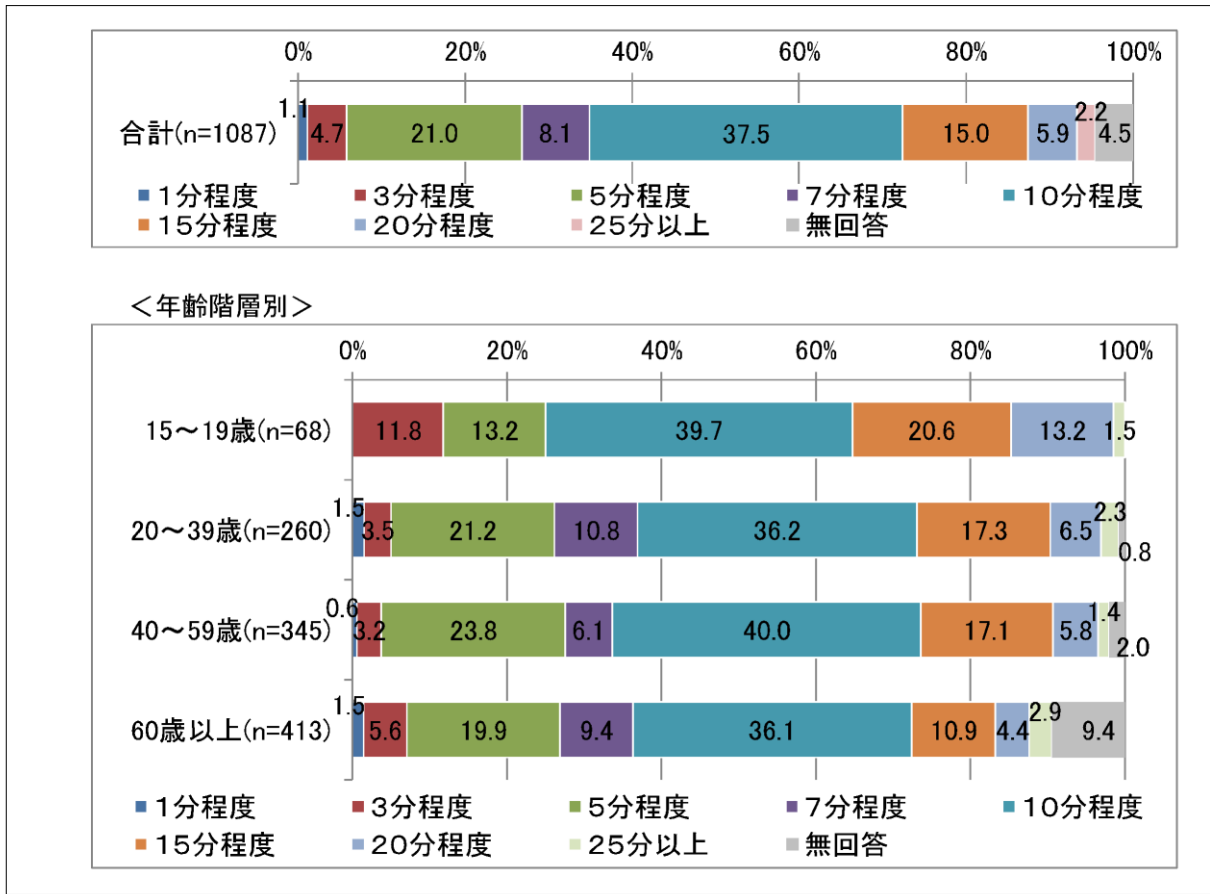
<バスの費用負担の在り方>



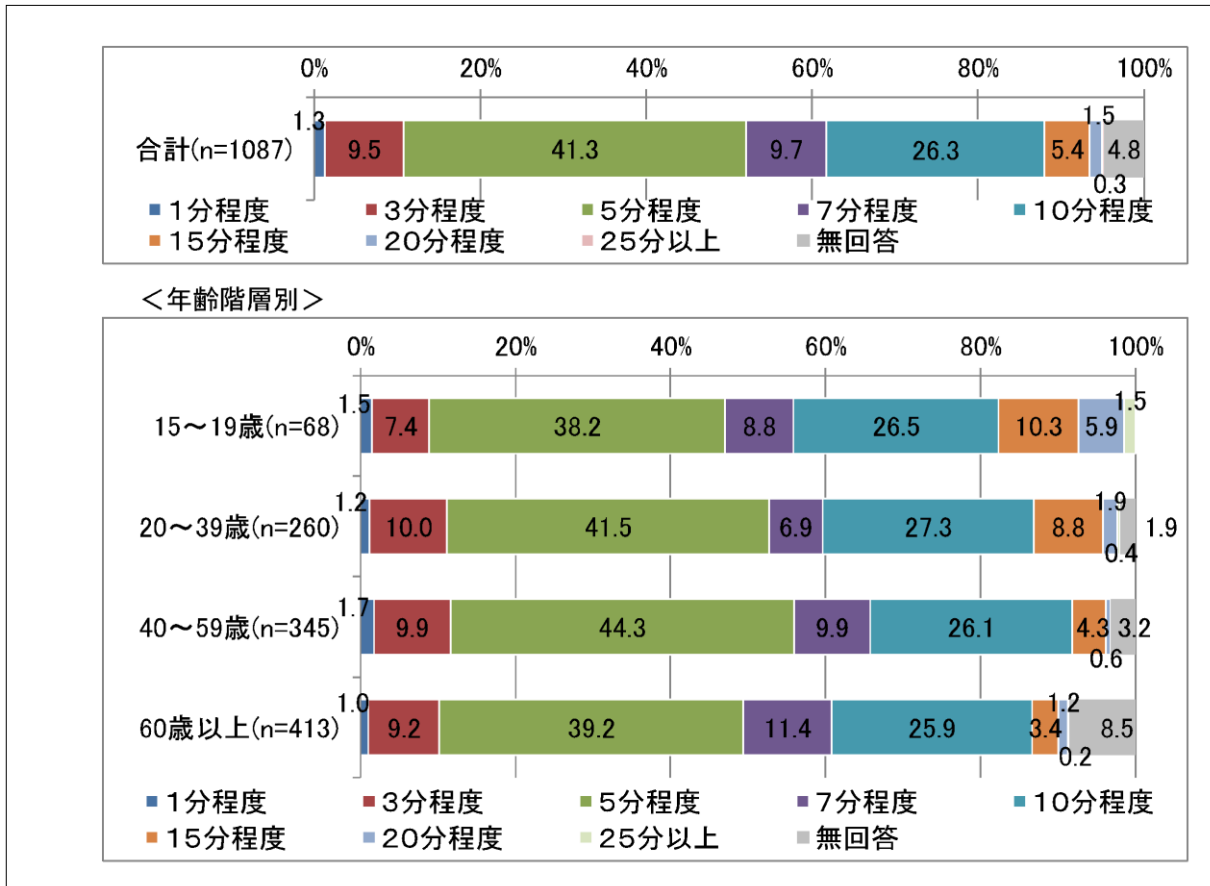
<バスで行きたい、または行ってほしい施設>

市内		市外	
施設名	票数	施設名	票数
陶生病院	97	モリコロパーク	97
アピタ瀬戸店	72	愛知医大	55
イオン瀬戸みずの店	65	森林公園	53
市立図書館	61	アピタ長久手店	48
市役所	49	イトーヨーカドー尾張旭店	48
市民公園	42	イオン長久手店	45
道の駅瀬戸しなの	25	藤が丘駅	43
岩屋堂公園	24	高蔵寺駅	34
文化センター	22	ござらっせ	30
新瀬戸駅	19	三郷駅	21

< 駅から歩ける距離 >



< バス停から歩ける距離 >



(2) 市内基幹バス（瀬戸北線）利用者アンケート結果

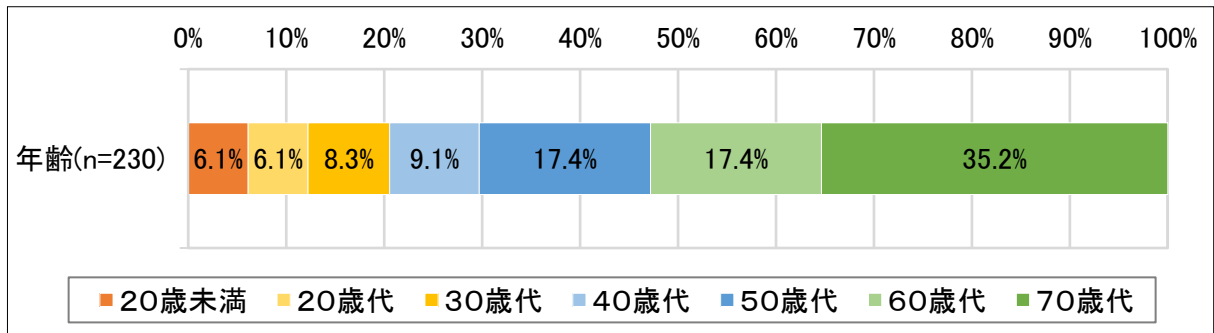
- 瀬戸北線は、通勤・通学や、買い物・通院・飲食等に使われている。平成21年度調査結果と比較すると、通勤・通院目的での利用が減少している。年齢層は60歳代以上が過半を占めるが、50歳代以下の層も一定の利用がある。
- 市内基幹バス（瀬戸北線）の費用負担の在り方は、「現在の運行を維持・市の負担は現状」が約5割と多い。
- 市内基幹バス（瀬戸北線）の満足度は、運行本数、バス停の待合環境、運行時間帯に関する不満があるものの、バス自体の乗り心地や乗車環境、乗務員の対応などの不満は少ない。

■ 調査概要

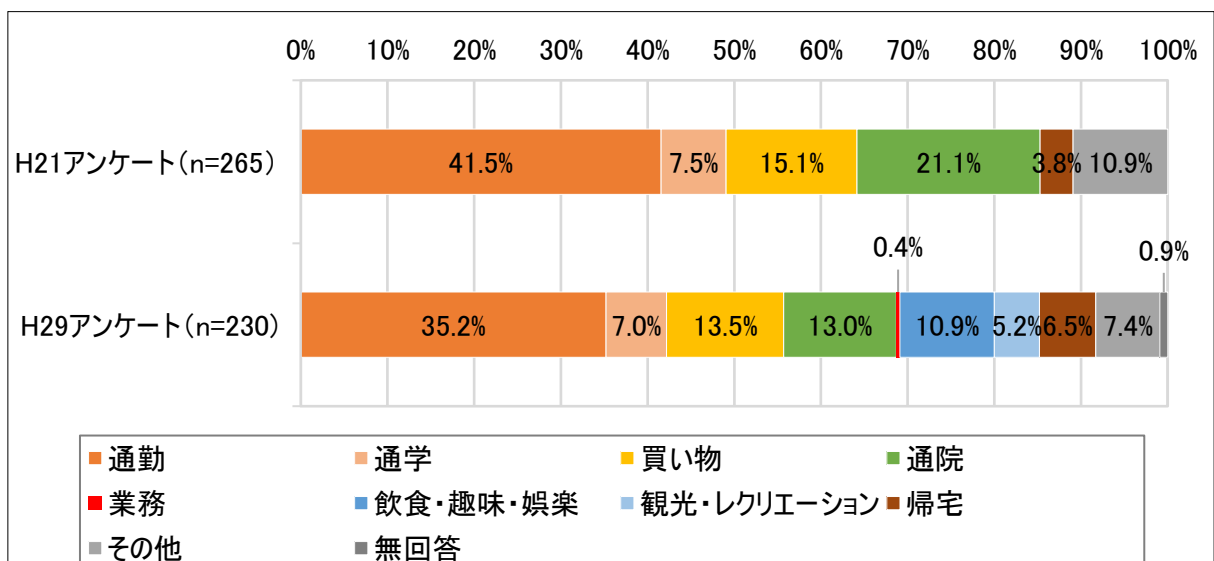
調査日時	平成29年11月16日、11月18日（バス内での直接配布、郵送回収）
調査対象	市内基幹バス（瀬戸北線）利用者
配布票数	545票
回収票数	230票（回収率約42%）

■ 調査結果

<市内基幹バスの利用者層>

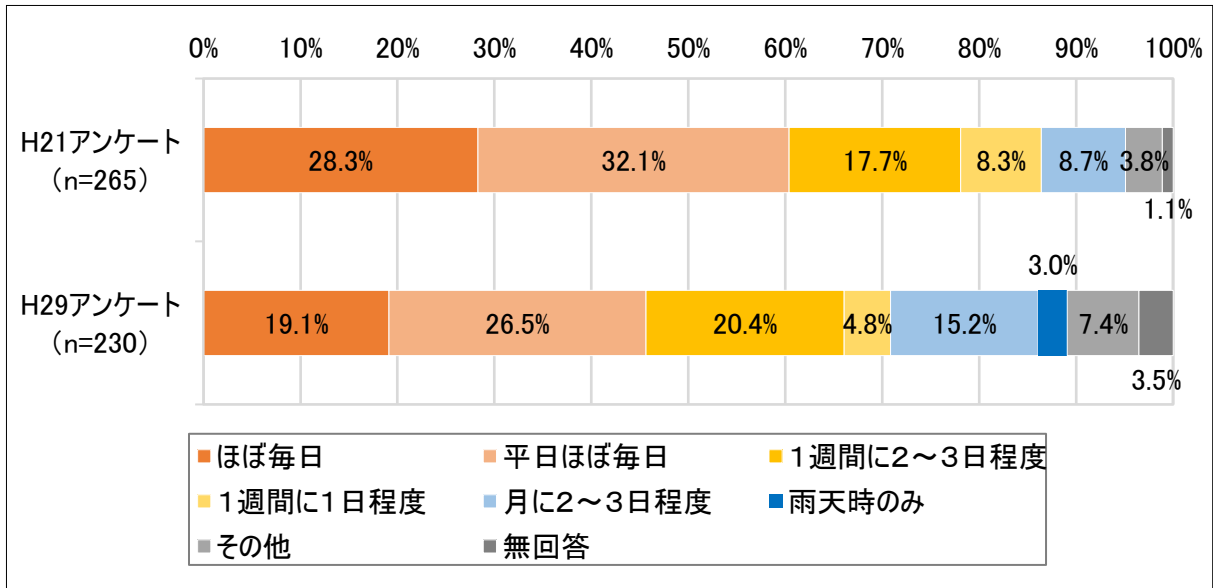


<市内基幹バスの利用目的>

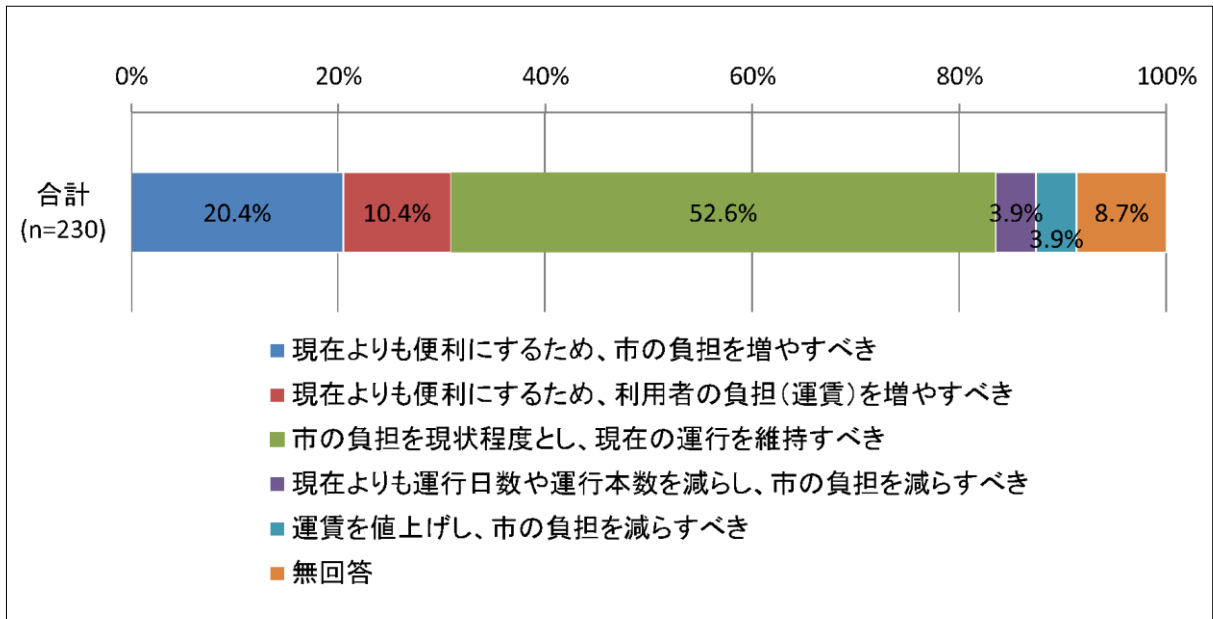


注) 「H21 アンケート」では「業務」、「飲食・趣味・娯楽」、「観光・レクリエーション」等は選択肢にないため、「通勤」「買い物」に含まれていると思われる。

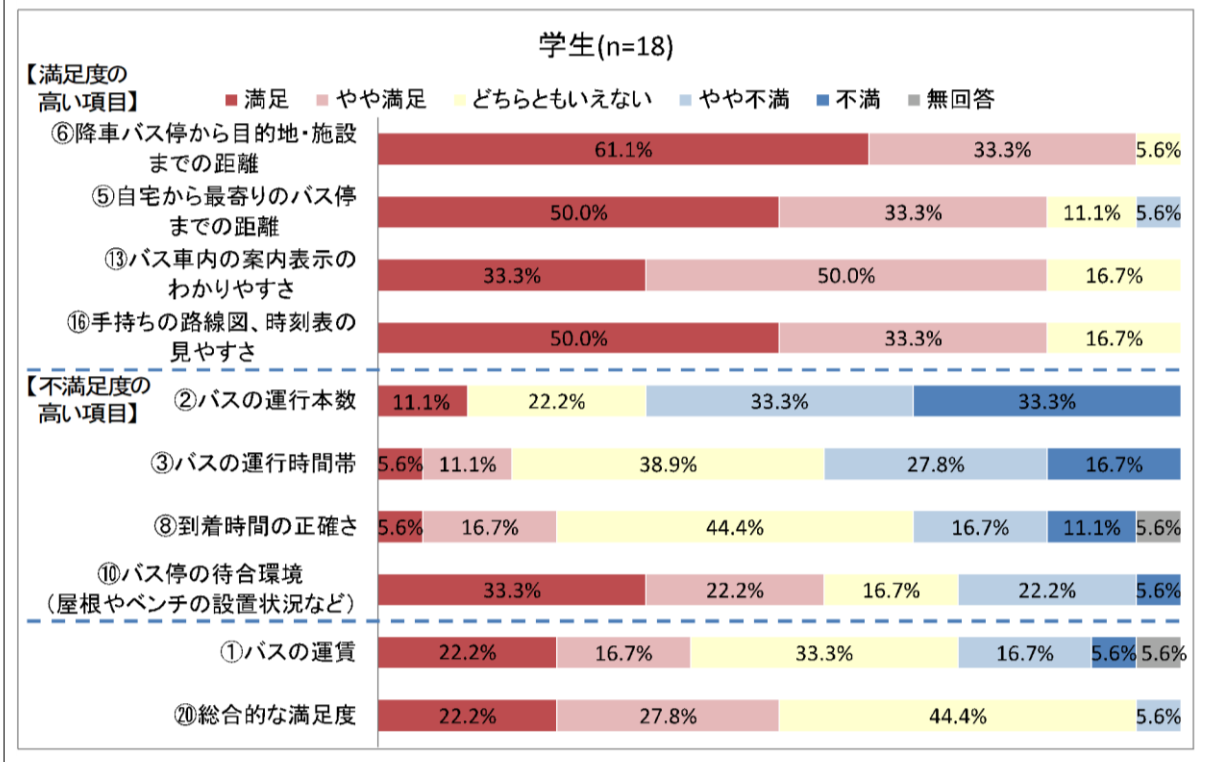
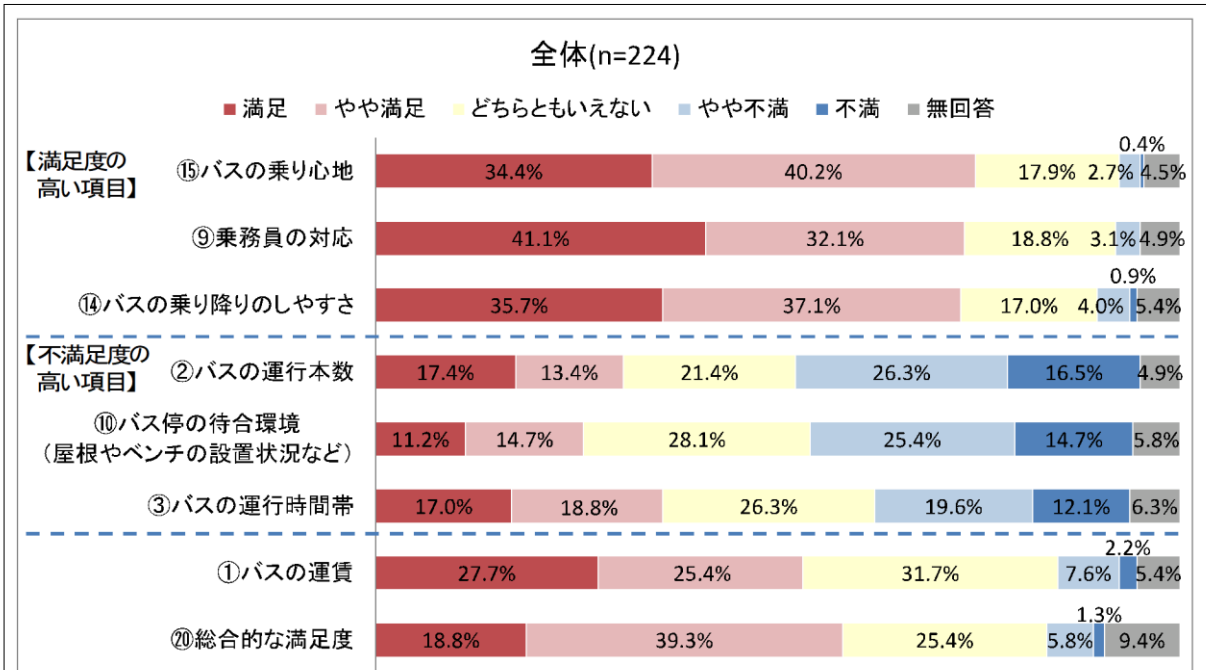
<市内基幹バスの利用頻度>



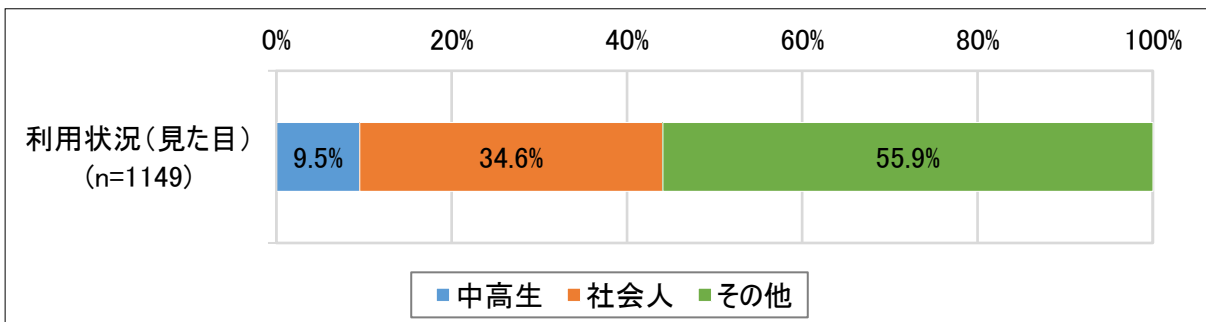
<バスの費用負担の在り方について>



<瀬戸北線の満足度について>



<利用状況（見た目）>



(3) コミュニティバス利用者アンケート結果

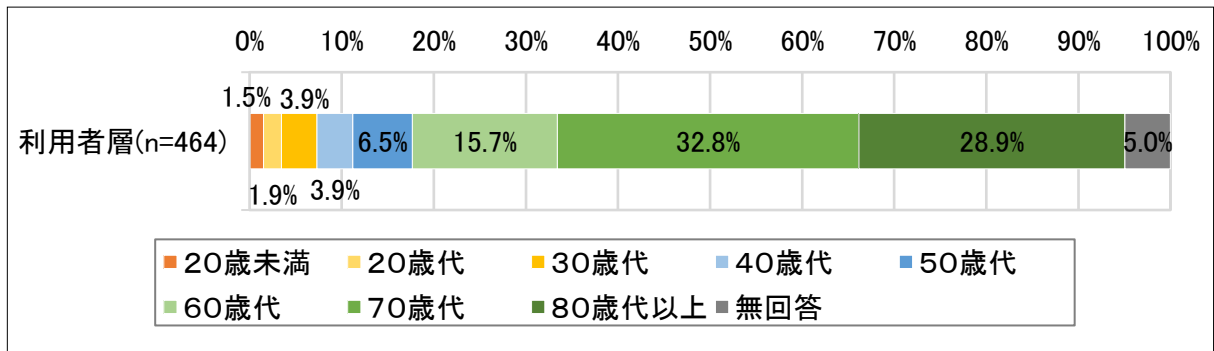
- コミュニティバス利用者の属性は、年齢層は60代～80代以上が4分の3以上を占めており、利用目的は買い物・通院が多い。
- コミュニティバスの満足度、重要性は、運賃が満足度、重要性ともに高い。次いで、運行本数の重要性が高いものの満足度が低い。
- バスで行きたい施設は、陶生病院、市役所、商業施設等が挙げられている。

■ 調査概要

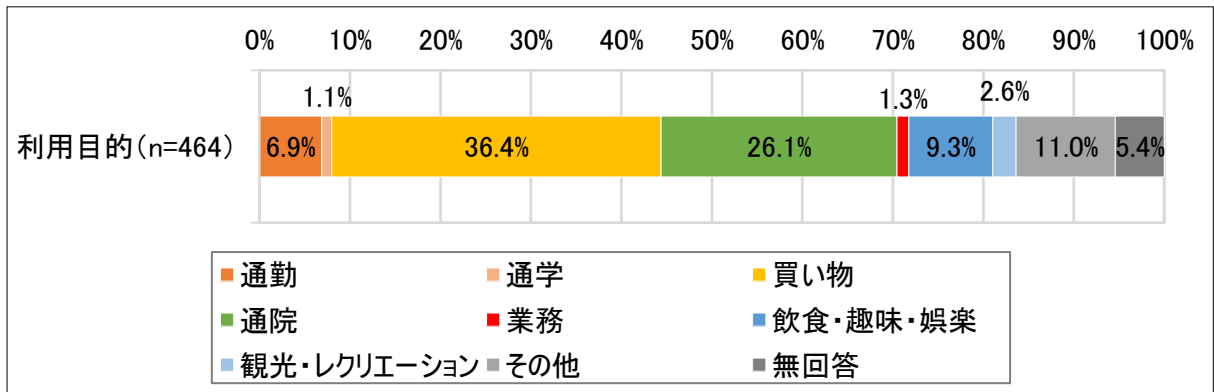
調査日時	平成30年8月18日～9月9日 ※アンケートを車内に設置し、郵送または車内回収箱にて回収。WEB回答フォームも用意。8月18日～21日は車内に調査員が乗り込み対面調査を実施。
調査対象	コミュニティバス（全8路線）利用者
回収票数	464票

■ 調査結果

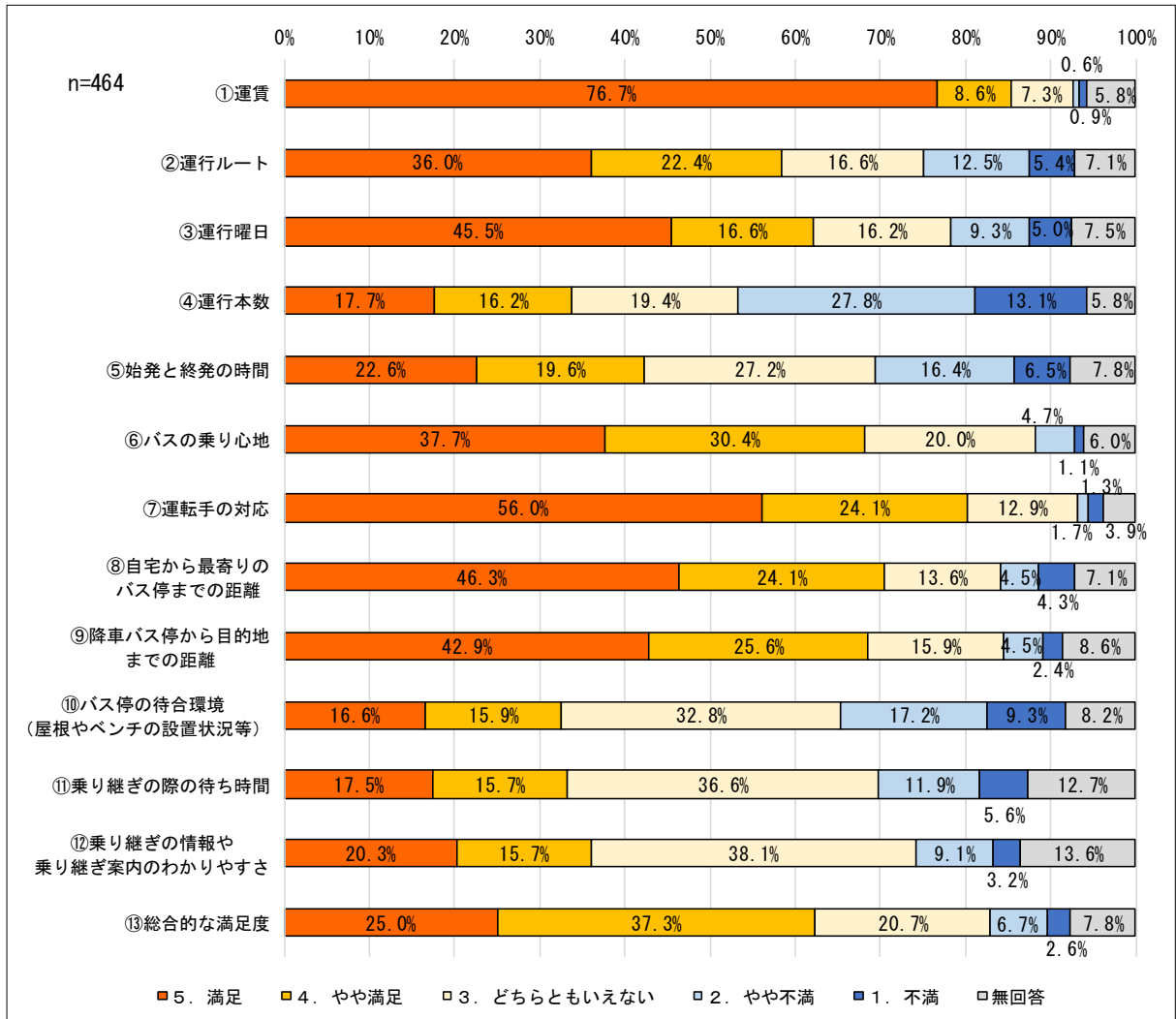
<コミュニティバスの利用者層>



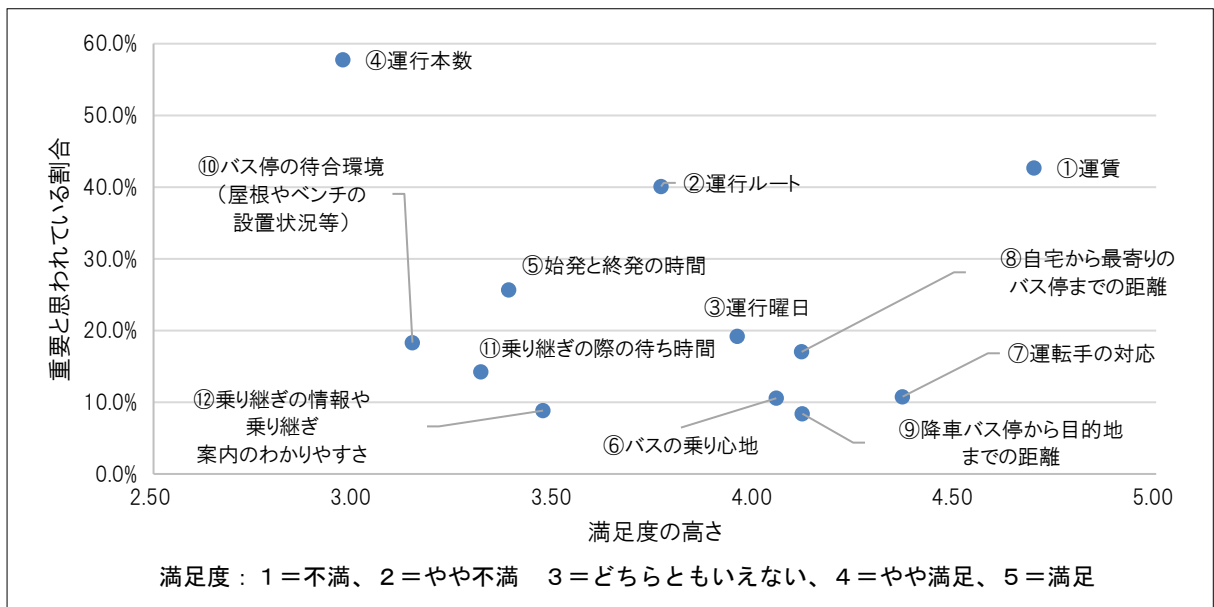
<コミュニティバスの利用目的>



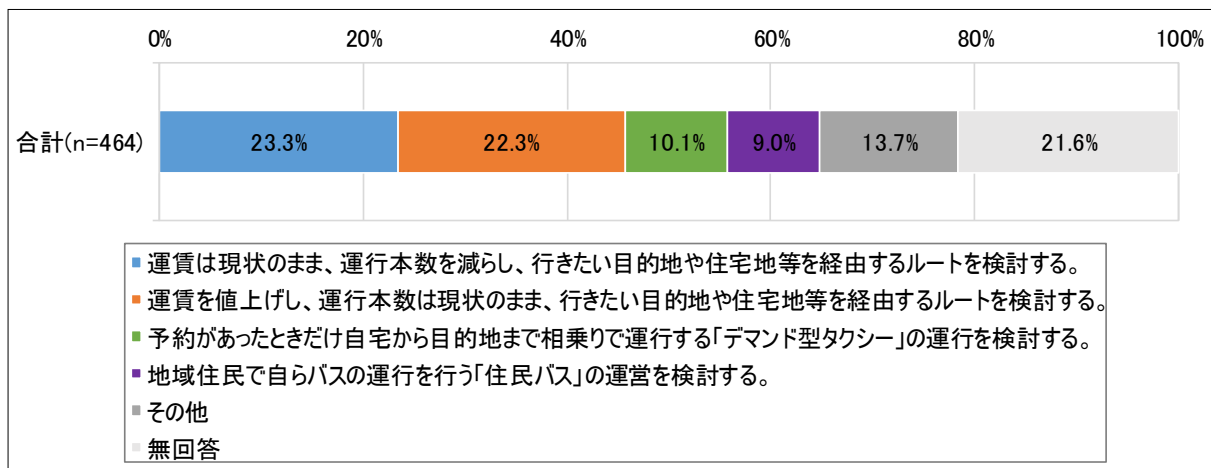
<満足度>



<コミュニティバスの現状の満足度と重要性について>



<バスの費用負担の在り方について>



<コミュニティバスで行きたい、または行けるようになるとよい施設>

施設名	票数
陶生病院	44
瀬戸市役所	41
イオン瀬戸みずの店	26
瀬戸駅（新瀬戸駅を含む）	16
瀬戸市立図書館	16
道の駅瀬戸しなの	15
アピタ瀬戸店	13
カーマホームセンター	13
やすらぎ会館	13
バロー新瀬戸店	9

(4) コミュニティ交通市民ワークショップ実施結果

- 瀬戸市の公共交通に対する課題やアイデア等を把握するため、高校生、大学生、主婦、高齢者など幅広い層の方たちにお集まりいただきワークショップを開催した。以下のとおり「PR・情報発信」、「利用者サービス」などの視点で様々なアイデアが挙げられた。

■ ワークショップ概要

開催日時	第1回 平成28年6月12日(日) 参加者20名 第2回 平成28年7月31日(日) 参加者20名 第3回 平成28年8月21日(日) 参加者20名 各午前10時～正午
開催場所	第1回・第2回：瀬戸蔵4階 会議室4・5 第3回：パルティセと4階 マルチメディアルーム
公募者数	委員22名
内容	公共交通の現状(瀬戸市コミュニティバス、基幹バスの現状)や全国の先進事例などについての説明、その後瀬戸市コミュニティ交通に対する意見交換やグループワークを行い、コミュニティ交通へのアイデアを発表した。

■ アイデアまとめ

PR・情報発信

- 路線図・時刻表の工夫・改善(デザイン、観光やグルメ情報の掲載、地域・年代(対象)別に作成、乗り継ぎ情報などの掲載)
- 高校・大学生向けパンフレット作成を学生に依頼
- 広報せと、HPでのPR強化
- バス車両デザインの改善
- バス停のデザインの変更・文字サイズの拡大
- 路線名やバス停名をわかりやすい名称に変更
- コミバス愛称の公募
- キャッチフレーズ、歌、踊りなどコミバスに親しみ・愛着を持てる工夫

運行管理

- 全路線毎日運行
- 地元自治会によるバス利用に対する懇談、ルート設定、バス停管理
- 「バスを考える会」の発足
- 運行事業者との連携強化

利用者サービス

- 定期券、一日乗車券、敬老バスなどの導入
- マイ・ダイヤ窓口(乗り継ぎ、ダイヤ相談窓口)の設定

路線・時刻

- ルート・時刻の改編
- 循環型ルートの設定
- 団地内回遊バスの導入
- 他市拠点への乗り入れ強化、市内拠点整備
- 観光路線の設定(岩屋堂、道の駅など観光拠点周遊)
- デマンドバス、乗合タクシーの導入
- 運行時間の延長(朝・夕便)
- 乗り継ぎ利便性の向上

その他

- 大学の通学バスとの連携
- 市民意識の向上(「みんなで育てる」「まず乗ろう!」)
- 民間資金の活用(地域ファンド、目的別ファンド、個人ファンド)
- バス車両のバリアフリー化(車両サイズは現在で適正)



(5) 市内基幹バス沿線協議会・コミュニティバス運行協議会の設置状況

- 市内基幹バスやコミュニティバスの運行内容や利用促進について、市民、交通事業者、行政の三位一体となって検討する協議会が設置されている。定期的に意見交換が行われているとともに、地域が主体となった利用促進事業が実施されている。

■ 協議会の設置状況と主な取組内容

<市内基幹バス沿線協議会>

設置地区	開催回数	主な取組
品野台地区沿線協議会	年10回程度	・バスの乗り方教室（ぬくも里まつり参加者対象） ・バス広報の発行（年3回程度）
下品野地区沿線協議会	年10回程度	・バスの乗り方教室（下品野小学校4年生対象） ・バス広報の発行（年3回程度）
西陵地区沿線協議会	年10回程度	・バス停周りの維持管理および交通大監視 ・バス広報の発行（年3回程度）
赤津地区沿線協議会	年3回程度	・赤津連区だより発行

<コミュニティバス運行協議会>

設置地区	開催回数	主な取組
こうはん線運行協議会	年3回程度	・利用状況の把握及び利用促進に向けた検討
品野3線運行協議会	年3回程度	・利用状況の把握及び利用促進に向けた検討
曾野線運行協議会	年3回程度	・利用状況の把握及び利用促進に向けた検討
菱野団地コミュニティ交通運行協議会	年12回程度	・菱野団地「住民バス」運行事業についての検討・分析
下半田川線運行協議会	年3回程度	・コミュニティ交通社会実験に向けた検討・実施結果の分析



西陵地区沿線協議会 中部運輸局長表彰



下品野地区沿線協議会 バスの乗り方教室